
僕の好きなアニメ＆ゲームのキャラで逃走中！～王国に迫る危機～

i z u m i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！～王国に迫る危機～

【Zコード】

N7073X

【作者名】

izumi

【あらすじ】

「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」第3弾！今回の舞台はとある王国！平和でのどかな王国に危機が迫る…。そして、裏で暗躍する謎の人物の正体は！？果たして、逃走者たちは、無事、ハンターから逃げ切り、賞金を獲得できるのか！？

プロローグ（前書き）

はい、どうもi n u m iです！

ついに始まつた「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」

第3弾！

今回も頑張つてこきますのでよろしくお願いしますー！

プロローグ

此処はとあるビルの一室。そこには今宵がいた。

今宵「やはりゲームマスターを任せられるのは緊張するものだな…」。

そして今宵はモニターを確認した。

今宵「さて…今回も楽しませてくれよ…。」

今、今宵が見ているモニターには…。

『the city』

『the edo』

『the kindam』

『night amusement park』

の4つが表示されている。

今宵「では、ゲームスタートだ。」

今宵は表示されている『the king and a man』をためらいもなく押した…。

プロローグ（後書き）

活動報告でも書いたとおり、今はいろいろバタバタしています。なので今のところは投稿ペースが遅くなると思います。

でも頑張って投稿していきます！

なのでよろしくお願ひします！

逃走者紹介（前書き）

今回の逃走中に参加する逃走者たちです。

前回の人数よりは少ないです。

訂正 一部の逃走者の説明を変えました。

ある程度は他の作者さんからの逃走者紹介を参考にしています。
(特にぶよぶよ勢)

逃走者紹介

逃走者紹介

『魔法少女リリカルなのはStrikerS』

高町なのは

「エース・オブ・エース」の称号を持つ若手トップエリート魔導師。前々回参加した時はヘリに見つかり確保された。今回もミッションには積極的に参加する。

フェイト・T・ハラオウン

なのはの幼馴染で親友。

前々回は前半のあたりで確保された。今回は長く生き残りたいと思っている。

八神はやて

守護騎士ヴォルケンリッターを従える魔導騎士。

前々回はミッション3の途中で確保された。

シグナム

ヴォルケンリッターの将。責任感が強く、ミッションには絶対に向かう。足はかなり速い。

ヴィータ

ヴォルケンリッターの一人。足は遅く、ミッションは他人任せ。

シャマル

ヴォルケンリッターの一人。足は遅いがミッションには向かう。

スバル・ナカジマ

機動六課に所属している少女。ミッションには向かう。足はかなり速い。

ティアナ・ランスター

スバルのパートナー。足は速いが、ミッションには向かわない。

『とある魔術の禁書目録』

上条当麻

学園都市に住む右手に「幻想殺し（イマジンブレイカー）」の力を持つ少年。

前回は装置を止められず、ハンターに確保された。ミッションには向かう。

インデックス

魔術師の少女。前回はいい所を見せられず、確保された。
今回もミッションには向かわない。

御坂美琴

超電磁砲の異名を持つ少女。前回はハンターと鉢合せになり、確保された。

ミッションには絶対に向かう模様。

白井黒子

常盤台中学校の1年生で第177支部所属の「風紀委員」。ジャッジメント足は速く、ミッションには参加する。

『東方Project』

博麗靈夢

幻想郷で一番強いと言われている博麗神社の巫女。足は普通で、ミッションには行く。

霧雨魔理沙

幻想郷の魔法の森に住む魔法使い。足は速く、ミッションにも向かう。

十六夜咲夜

紅魔館のメイド長。身体能力は高く、ミッションにも向かう。

レミリア・スカーレット

紅魔館の主人で吸血鬼のお嬢様。足は普通で、ミッションは行く。

フランデール・スカーレット

レミリア・スカーレットの妹。足は普通で、ミッションは他人任せ。

アリス・マーガトロイド

魔法の森に住む魔法使い。足は普通で、ミッションは行かない。

『大乱闘スマッシュブラザーズX』

マリオ

おなじみのスーパースター。

前回は1stステージを突破するも2ndステージのミッション5の途中で確保。

今回も頑張りたいと思っている。

ルイージ

マリオの弟。前回はハンターに見つかり、確保された。

今回もハンターが怖いのでミッションには行かない。

アイク

グレイグ傭兵団の団長を務める剣士。

前回はミッション5の途中で確保。

今回は二度目の正直と言つことを信じて逃走成功を狙つ。

スネーク

「不可能を可能にする男」と呼ばれる男。

前回はミッション3の途中で確保された。今回も逃げ切つて逃走成功を狙つ。

『ふよふよ』

アルル

遠い世界から飛ばされた魔導師見習いの女の子。足は速く、ミッションにも積極的。

シェゾ・ウイグイイ

アルルの魔導の力を狙う闇の魔導師。足は速いが、ミッションは行かない。

ルル

自称サタンの婚約者の格闘女王。足はかなり速く、ミッションにも参加する。

ウイッチ

プライドが高く、自分に正直な性格の魔女。足は普通で、ミッションは状況次第で参加。

ドリケンタウロス

美少女コンテストに情熱を燃やす半竜半人の女の子。足は速く、ミッションにも参加する。

アミティ

プリンプタウンの魔導学校に通う明るい女の子。足は速く、ミッションにも参加する。

ラフィーナ

良家のお嬢様で誰に対しても高飛車かつ高圧的な唯我独尊系少女。足はかなり速く、ミッションにも参加する。

シグ

虫を愛好する非常にマイペースな少年。足は遅く、ミッションには興味無し。

リデル

頭のツノを気にしている亜人間の女の子。足は遅く、恥ずかしがりやなため、ミッションには行かない。

クルーク

成績優秀だが、他の生徒を見下している自意識過剰でイヤミな性格の生徒。足は遅く、ミッションには向かわず自首を狙っている。

フューリ

プリンプタウンの鱗町の学校に通う生徒で、自分の世界にどっぷり漬かり込んでいるダークな少女。足は遅く、ミッションには行く。

レムレス

フェーリの先輩に当たる、学生ながら非常に優秀な魔導師で、彗星の魔導師を名乗る学生。足は普通で、ミッションは行かない。

サタン

自称・魔界の貴公子。足は普通で、ミッションは他人任せ。

以上の35人で逃走中を行つ。

逃走者紹介（後書き）

上条当麻・御坂美琴・アイクが三回連続の参戦！

今回こそ逃げ切れるのか！？

そして、実力未知数のサタンにも注目！

Haria 詳説（前書き）

今回のHariaです。

前回みたいにあいまいな感じではなくイメージしやすいように書いてみました。

いつもやって書くと自分でもどんな感じなのか想像しやすい。

エリア詳説

エリア詳説

今回逃走者たちが逃げるエリアの舞台は伝説の剣士が存在していたと伝えられる『ある王国』。

中世の街並みっぽい建物が印象的な王国である。

この国は水路が敷かれており、水路には移動手段として、船が通りしており、水路沿いの道がある。

エリアの広さは東京ドームの約7個分。

エリア中心から見て北西の位置に『王の城』があり、エリア中心部にはこの国の住民が平和に暮らしている『城下町』がある。王の城の近くには不思議な力があると伝えられている『神秘の噴水』がある。

城下町の南側にはいろいろな物が売られている市場が開かれている、北西側にはたくさんの財宝などがある『宝石の館』がある。そして、王の城の近くには、漁船などが停泊している『港』と、離れ小島をつなぐためにある『跳ね橋』がある。

そして、エリアの北側には広大な森が広がる『縁の森』があり、隠れ場所としては最適の場所である。

その森の中心にはお祝い事やお祭りがあるときに使用される『パーティーグラウンド』がある。

そして、南東側には風車が印象的な『花園の丘』がある。

此処は風車以外に目立つた建造物は無く、隠れるのは困難である。

ちなみに、王の城と城下町、緑の森、花園の丘の間には水路があり、
その間には橋が掛けられてある。

エリア詳説（後書き）

なんとか頑張りました…。

次回はついに、OPゲーム…。

オープニングゲーム（前書き）

エリア詳説を確認してみたりちょっと自分の想像していたエリア構成とは違う所があつたので修正しました。

では、恐怖のオープニングゲーム、スタートです…。

オープニングゲーム

漆黒の闇の中、王の城がきらきら輝く下、35人の逃走者たちが集められていた…。

アルル「もうすぐだね…。」

サタン「アルル！ いざという時はこの私が…。」

シェゾ「いや、この俺が…。」

アルル「もう一人とも！ ボク一人でも大丈夫だよ…。」

なのは「頑張るうねフェイトちゃん。」

フェイト「うん、なのは、頑張るう…。」

アリス「早くしてくれないかしら…。」

アイク「今回こそは絶対に逃げ切るぞ…。」

シグナム「もうすぐか…。」

逃走者たちそれが氣を引き締めている中、スピーカーから不気味な声が聞こえてきた。

『これより、ゲームを始める。』

サイコロ「いよござだわ…。」

美琴「始まるのね…。」

『君たちの前に置いてあるサイコロの目は2から6の目とハンターの目がある。』

逃走者たちが協力して、ハンター ボックスを30マス以上進めることができれば逃走者たちに1分間の猶予が与えられる。

しかし、ハンターの目を出せばハンターが解き放たれ、ゲームがスタートする。』

逃走者たちがこれから挑むのは、恐怖のオープニングゲーム！

逃走者たちとハンターの距離はおよそ30メートル。

逃走者たちは一人ずつ、サイコロを振らなければならぬ！

サイコロには2から6の目とハンターの目がある。

逃走者たちは協力してハンター・ボックスを20マス以上進める」と
ができれば1分間の猶予が与えられる。

しかし、ハンターの目を出した瞬間、ハンターが放出。ゲームが始
まる…。

なお、サイコロを振る順番はくじ引きで決まっている。運任せだ…。

全員「いつせーの、で！！」

カシャン！

マリオ「ええと… 14番か…。」

フラン「ええ！？ 3番！？ 一番危ない所じゃん！！」

レミリア「私は25番だわ…。」

スバル「8番！ ティアナは？」

ティアナ「あたしは10番だわ。スバルの2個次ね。」

シグ「おおー。34番。」

一人目 ルル！

ヴィータ「いきなり出さないでくれよー」

ルルー「そんなの分かんないわよ！」

そう、このオープニングゲームに必要なのは……運だ……。
ルルー「でも逃げる準備はしどいたほうがいいわよ？」

マリオ「そうだな。」

ヴィータ「逃げる準備つと……。」

ルルー「行くわよ……。」

果たして、クリアか……ハンター放出か……？

ルルー「やあ！」

ルルーが投げた……。

トンッ！

ルイージ「一発皿とかやめてよね。」

サイコロの…。

スケルト…。

ルルー「お願…。」

皿…！？

スケルト…。

全員「…。」

サイコロの皿…。

「5」だ。

全員「怖い！…！」

ルルー「なんとか出でずにはんだわ…。」

ハンター ボックス、5マス接近…。

ガガガ…。

サタン「うむ…思つた以上に来るな…。」

クリアまで、残り15マス！

二人目 博麗靈夢

靈夢「絶対に此処で捕まりたくないわ…。」

魔理沙「靈夢ーー絶対にクリアしろよー。」

靈夢「当たり前でしょー。」

幻想郷で一番強と言われてこの博麗靈夢、その運はいかに。

靈夢「行くわよ。」

クリアかハンター放出か。

靈夢「はあー。」

ひょい〜。

果たして、出るのな。

トニンガー！

アルル「怖いよ。」

数字の田か。

。ルルルルルル

せやべ「…。」

ハンターの田か…！？

ルルルルルルルタ…。

全員「…。」

出た田か…。

「3」だ。

靈夢「危なかつたわ…。」

ハンターボックス、3マス接近…。

クリアまで、残り12マス！

三人目 フランドール・スカーレット

フラン「ちょっとこれは厳しいかも…。」

レミリア「大丈夫よ、フラン！6分の1だから！」

もし、ハンターの目を出せばその瞬間ハンターが放出、恐怖のゲームが始まる！

フラン「そうだよね…。じゃあ行くよ…」

クリアか…ハンター放出か…。

フラン「えーーー！」

ひゅう…。

リデル「お願い…。」

果たして…。

アハハ…。アハハ…。

エヌのエ…。

フクノ「あー…やがて…」

マコト「うわわわ…」

アリス「わざわざ回り…」

ハンターの田か…？

ピタ…。

金圓「…」

サイコロの目は…。

「6」だ。

フラン「やったあああ……！」

アリス「一番いい目じゃなーい？」

アイク「よし、もうひとつとでクリアできるーー！」

ハンター ボックス、6マス接近…。

クリアまで、残り6マス！

次の一手でクリアできる可能性ができた！

シグ「おおー…。」

レムレス「次6の目を出したらクリアなんだね？」

この重要な局面で回ってきたのは…。

四人目 ウィッヂ

ウイッヂ「近づきますの…。」

ラフィーナ「あの距離で出たら危ないんじゃないの？」

もしこの距離でハンターの田を出せば犠牲になるのは一人では、済まない！

ウイッヂ「行きますわよ！」

クリアか…ハンター放出か…。

ウイッヂ「それ！」

ひゅう…トシッ…いふいろ…。

果たして…。

美琴「こんな所で出てほしくないわね…。」

「うーん、手で…。

…うるさい。

ウイック「お願ひですか…。」

クリアとなるか…? ?

ピタ…。

ウイック「…」

金曜「…」

サバ口の皿…。

「4」だ。

ウイッチ「クリアとまではいきませんでしたが…。」

ハンターボックス、4マス接近…。

ガガガ…。

当麻「うわあ…近いって…。」

ドラゴ「もう田の前じやん！」

フェイト「次が重要だよね…。」

クリアまで、残り2マス！

サタン「次で決まるのか…。」

このオープニングゲームクリアの運命を握るのは…。

五人目 レムレス

彗星の魔導師、レムレスに託された！

レムレス「まさか僕の所まで来るとはね…。」

フューリ「先輩…。」

レムレス「大丈夫、クリアして見せるさー。」

もし、この距離でハンターの田を出せば、4体のハンターがレムレスに襲いかかる！

レムレス「それじゃあ行くよ…。」

クリアか…ハンター放出か…！？

レムレス「やあ…。」

トンシ…JNRIJNRI…。

オープニングゲームを…。

フューリ「お願い…。」

クリア…。

「うううう…。

レムレス「微妙だね…。」

できるか…！？

「うううう…。

インテックス「大丈夫だよね…。」

「うううう…ピタ…。

全員「…！」

サイコロの皿は…。

「3」だ。

レムレス「ふう〜危ない危ない...」

オーブニンゲームクリア！

これで、逃走者たちに1分間の猶予が与えられた！

「60」

力子。

195

レバーア「クリア できてよかったです。」

スネーケー 幸先がいいな……。

逃走者たちはこの1分間、なるべくハンターボックスから遠くに逃げる！

42

シエゾ「隠れる場所が少ないな。」

アリス「とりあえず…此処にいましょう。」

- 30 -

ハンター放出まであと30秒！

シャル - これ...きつい...!」

アリティ一覧！？隠れる場所が少なしよー！！

1

サタン、此處で少し様子を見るか？

15

シケ - おおゝ... しし所...

1

スタッフ「ハンター放出まであと10秒近くです。」

ティアナ「えつ！？もうすぐ10秒！？」

ハンター放出まで…。

6
!

7
!

8
!

9
!

10
!

1

2

3

4

5

プシュー！ガコン！

恐怖のゲームが、幕を開けた…。

アイク「始ました！」

シグナム「ハンターが放出されたか…。」

フューリー「…走っているわね…此処から離れましょ…。」

シェゾ「ついに始ました…。」

クルーケ「此処に隠れてく…。」

ウイッチ「ついに始まりましたわね…。」

魔法使いの少女の、ウイッチ。

ウイッチ「一人前になるためならこのくらいはクリアしますわよー。」

逃走成功を目指す！

当麻「始まりましたねえ…。」

3回行われた「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」のすべてに参加している逃走者の一人の上条当麻！

当麻「3回も出ていますからね…パターンとかは大体はわかつてきましたよ…。」

アイク「もちろん目標は逃走成功！」

こちらも3回すべてに参加しているアイク。

アイク「自首なんて最初から考えていない！最後まで逃げ切る！」

自首する気は、無いようだ…。

サタン「今は…1万円か…。」

ふよ地獄を創造したボスらしい自称・闇の貴公子のサタン。

サタン「アルルとはぐれてしまったが…まあいい、そのうちにまた会えるだろう。」

果たして、その実力は！？

シェゾ「今は…此処か…。」

現在、城下町にいるシェゾ・ウイグイイ。

シェゾ「とりあえず周りの状況を把握しておこうか…。」

マリオ「ハンターはやつぱり怖いからな…。」

王の城付近にいるマリオ。

マリオ「逃げるルートを確保しておいた方がいいからな…。」

その彼の近くに、ハンター…。

マリオ「此処は…無理か…」の先だな…。」

ハンター「…。」

マリオ「この先を曲がって行けばいいのか。」

ハンター「…。」

見つかった…。

マリオ「じつからほじつけ…って来てる…。」

ハンターに見つかったマリオ、振り切れるのか!?

ボン

マリオ 確保 残り 34人

マリオーちよつと待てよー……こきなりかよー……嘘だろー！？

スーパースターが開始早々、ゲームから、脱落…。

マリオ「うわあ～…ルイージになんて言われるかな～…。」

アリス「夜だからハンター見えにくーピリリ！ピリリ！」な、何よ
！見つかっちゃうじゃない！！」

ルイージ「えええー！？『王の城付近にてマリオ確保。残り34人。』って、兄さん早すぎるよー！」

アイク「え…まだ…始まつて5分も立つていないぞ！？」

ハンターから逃げた時間に応じ、賞金を獲得できる、それが…。

リデル「わあ～…お城が奇麗に光っています～…。」

なのは「あ～、兵士さんたちだ～…王国だ～…。」

今回の舞台は、海に浮かぶとある王国…中世の建物が立ち並ぶこの王国には伝説の剣士が存在していたと言われる伝説がある。

広さは東京ドーム7個分。このHリアの中を34人の逃走者が、逃げ回る。

フラン「うわあ…どんどん賞金が上がっていいくよ…。」

賞金は1秒100円ずつ上がり、ゲーム時間160分を逃げ切れば賞金96万円を獲得できる…！

フューリー「自主…危なくなつたらその選択肢も考へてあるわ…。運命にはそつした方がいいと出でているわ…。」

クルーク「最後まで行く気はないわ。いい金額になつたら自首しようと思つてる。」

さりて、このゲームでは自首も可能！Hリア内に設置される2台の自主用電話ボックスから自首を申告することでゲームから離脱、それまでの賞金を獲得できる。

しかし、エリア内には4体のハンター。

ハンターに確保されればその時点で失格、賞金も、0。

ゲーム残り時間 158分30秒 残る逃走者 34人

オープニングゲーム（後書き）

今回一番長いかも…頑張った方です。

かつやくハンターによつて確保者が出でしました。

次回、王国に迫る危機…。

通達1（前書き）

すいません、エリアを追加します。

エリア追加

王の城、城下町に『町広場』を追加します。

町広場は他の所と比べると開けた場所でハンターに見つかりやすい。

ちなみに王の城と城下町の間に水路はありません。

城下町に『並木通り』を追加します。

並木通りはその名のとおり、道のわきに木が植えられています。

はやて「いやあ～まさかまた出してもらひえむとはなあ～。」

前々回モードの逃走中に参加したハ神はやて。

はやて「前はアカンかつたけど今回モードは逃げ切るで～。」

逃走成功を目指す。

シグナム「この逃走中に参加できるなんて…光榮だ。」

ヴォルケンリッターの将、シグナム！

シグナム「主はやてが参加したゲームだと聞いてな…どんなものか
気になっていたのだ。出さしていただいた以上は楽しまなければな。

」

シグ「う～ん…。」

現在、緑の森に隠れているシグ。

シグ「いい所まで行つたら自首しようかな～…。僕そんなに行ける
とは思わないからな～…。」

自首を狙っている。

靈夢「これが逃走中と言つものなのね…。」

幻想郷で一番強いと言われる巫女、博麗靈夢…

靈夢「外の世界ではこんなものがはやつているのね…。」

ルイージ「まさか兄さんが一番最初に捕まつてしまつなんて…。」

先ほど確保されたマリオの弟、ルイージ。

ルイージ「兄さんの為にも絶対に逃げ切らないと…。」

そのルイージの近くに…。

ルルー「Jのあたりはちよつと入り組んでいるわね…。」

ルルーだ。

ルイージ「えーと…あつ、ねえ、ハンターいたそっちに?」

ルルー「いいえ、今のところは見かけていないわ。」

ルイージ「そう、ありがど。」

ルル「兄みたいに捕まるんじゃないのよ！」

ルイージ「分かってるよー！」

アルル「このあたりは危ないかな…ちょっと見えすぎだし…。」

町広場にやつってきた魔導師のタマゴ、アルル・ナジヤ。

その近くにハンター…。

アルル「う~ん…あつ、ハンター！不味い不味い…。」

急いで建物の影に隠れる。

ハンター「…。」

アルル「…。」

ハンター「…。」

見つからなかつたようだ…。

アルル「ふう~危ない危ない…でもシェゾとかサタンは大丈夫なのかな？」

シェゾ「此処は…水路沿いの道か…。」

水路沿いの道にやつってきたショゾ。向かう先に……。

サタン「……闇の魔導師……。」

サタンだ。

ショゾ「……！」

サタン「なぜ貴様がこんな所に……。」

ショゾ「それはまじめの口説だ……。いいか、俺はお前よりは絶対に逃げてやるー！」

サタン「その言葉、そつくり返せさせてもらひやつか。」

ショゾ「ふん、せいぜい頑張るんだな。」

サタン「貴様……。」

スタッフ「仲が悪いですね……。」

ショゾ「当たり前だ。あのねつたとほー度と会いたくないな。」

サタン「あいつに負けるなど考えられん。」

フーリ「それにしても……きれいなお城ね……。」

お城を眺めるフューリ。

「お城には、この王國の国王がいる。」

住民は平和にこの国で暮らしていた。

国王（演・新川）「ふふっ、今日も平和じゃな……。」

大臣（演・KAHIO）「陛下、今日ものどかですね。」

国王（演・新川）「ああ、平和が一番じやな……。」

そして、その影では……。

? 「あんな国王にこの国は任せられない……この私が国王に就いてこの国の王になつてしまふ……。」

謎の人物が、国王の座を狙っていた。

謎の人物は、王の城の最上階に出て、松明をさげた。

王の城から、煙が上がっている……。

そして、この煙がある者へのサインだった……。

船長（演・涼宮ハルヒ）「なるほど…次はあそこね…。」

船員（演・キヨン）「あそこには『宝石の館』と言われるお宝があるそうです。」

船長（演・涼宮ハルヒ）「よーし…お宝は全部、この海賊『パイレーツ』がすべていただくわ！」

海賊が、エリアに接近する…。

そして、エリア内に逃走者の運命を分けるものが登場した…。

ピリリリ…ピリリリ…。

アイク「何だ?メール…『通達1』…なんだ…?」

レミリア「『エリア内に宝箱を設置した。』『宝箱…?』

スバル「『宝箱の中には逃走に有利なアイテムが入っている。』『』

レムレス「『しかし、ひとつだけ開けると大変な物が入っている。』『大変なもの…?』

アルル「『宝箱は残り120分までしかエリアに設置されない。そして宝箱は6個しかない。早い者勝ちだ。』『』

インデックス「アイテムだつて!」

通達1 アイテムを入手せよ！

エリア内に宝箱が設置された。

中には逃走に有利なアイテムが入っている。

しかし、ひとつだけ、開けると大変なことになるアイテムが入っている。

ちなみに宝箱の位置は逃走者たちには伝えられていない。

宝箱は残り120分になると消滅する。

数は6個のみ。早い者勝ちだ。

魔理沙「アイテムか？…興味あるな、取りに行つてみるか！」

サタン「有利になるんだつたら行つてみる価値はあるな…。」

ドラゴ「よーし、取りに行くぞー！」

フェイト「行つてみようか…。」

アイテムを取りに行く逃走者たち！

宝箱は残り120分になると消滅する。それまでに取りに行かないといけない！

当麻「どうしようかな…。だってさ、近くにいる人がアイテム取つ

てしまつたらむづかで終わりなんだろ?」

ティアナ「行くわけ無いでしょ!?.絶対にこんなのは信じない!」

スネーク「この「開けると大変になる物」が気になるな..。」

なのは「開けると大変な物..ハンター?」

サタン「...」んな所にあつたか...。」

最初に宝箱を見つけたのはサタン。

サタン「さて、中身は...。」

ガタッ

サタン「これは...一体なんだ?」

中に入っていたのは黒い銃だった。

サタン「何々...『冷凍銃』...。」

中に入っていたのは『冷凍銃』。これを使えばハンター1体をゲー
ムから除外できる。

サタン「いいものが入っていたな。よし、じゃあハンターを除外しに行くか！」

サタン、ハンターを除外するためにハンターを探しに向かう。

アイク「これが宝箱か…？」

アイクも宝箱を見つけた。

アイク「一体何が入っているんだ？」

ガタツ

アイク「…？捕獲網…？」

中に入っていたのは『捕獲網』。これをハンターに向けて使えばハンターの動きを1分間止めることができる。

アイク「よし…ピンチの時に役に立つな！逃走成功できそうだ！」

捕獲網を手に入れたアイク。心強い物を手に入れた。

ルイージ「おっ！」それがそうか！」

ルイージが、サタンやアイクが見つけた宝箱よりもひときわ大きい宝箱を見つけた。

ルイージ「でもこんなに大きかつたら何かいやなことがありそうだな～…まあいいや、開けてみるか。」

果たして、その中身は？

ルイージ「よつと。」

ガタッ

ハンター「！」

ルイージ「ぎょえ～！？」

なんと、中に入っていたのは『ハンター』！「開けたら大変になる物」とはハンターのことだったのだ！

至近距離のため、逃げれるわけもなく…。

ルイージ「ひゃああ～！！」

ポン
ルイージ 確保 残り 33人

ルイージ「え～中にハンターが入つてたの～！？あんなのアリ～！？」

確保されてしまった。兄弟一人とも牢獄行きだ…。

フラン「『港付近にてルイージ確保。残り33人。』」

スネーク「おいおいあいつら何やつてんだよ…。」

アイク「『そして、ルイージがハンターが入つっていた宝箱を開けてしまつたためハンター1体追加。合計5体となつた。』ええ～！？ふざけんなよ！…」

当麻「いらん」としてくれたな…。」

インデックス「あ、でもこれつて逆に言えばこれから開けるすべての宝箱は安全つてことなんだ。」

十六夜「ちょっと取りに行つてみますね。」

ラフィーナ「何やつてんのよ…。」

メールを見て文句を言つラフィーナ。

その近くに……。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

ラフィーナ「もう……！ハンターいますわ……。」

ハンターを見つけたラフィーナ。ハンターもラフィーナの姿に気付いた。

ラフィーナ「わたくしになめてかかりますと痛い目にありますわよ！」

町の角を使い、ハンターの視界から消える。

ハンター「…？」

見失ったようだ……。

ラフィーナ「なんとか行けましたわ……。」

なのは「これが宝箱……？」

宝箱を見つけたのは、そこに…。

シェゾ「ほう…これが宝箱か…。」

シェゾがやつて來た。

なのは「あ、シェゾ君。」

シェゾ「その中身は一体何なんだ?」

なのは「これから開ける所なんだよ。ちょっと開けてみるね…。」

一体何が入っているのか?

なのは「何かな…。」

ガタツ

なのは「…?地図?地図が入っていたよ?」

中に入っていたのは『秘密の地図』。ビームの地図かは不明だ。

シェゾ「…おい…。」

「え、何?」

シェゾ「お前が…欲しい！」

なのは「えええええ——！？？」

シェゾ「…あつ、「お前の持つてこる地図が欲しい」と、

なのは「あ、ルーナ…は…」。

シェゾ「……なるほど……。」

なのは「何かわかつた？」

シエゾ「どうやら今逃げているヒリアとは違う場所らしい。地形を見る限り、手渡された地図の地形と合わないな。そして此処に印がある。おそらくここに何かあるんだろう。」

なのは「やつなの……でもどこの地図だいぶ……」。

ショゾ「わあな。」

なのは「所での発言は何?」

シェゾ「ああ…俺は気が高くなると言葉を間違えてしまつんだ…。
だからいつも勘違いされてしまうんだ…。」

なのは「思ひつきし間違えているよね...。」

フロイト「一なのはが誰かのものになるような台詞が聞こえて来た
よつな…。」

スタッフ「気のせいじゃないですか？」

フロイト「うへん…そりかも…。」

次回、逃走者に危機が迫る…。

通達1（後書き）

初めて挑んだドラマパート！

やつぱりグダグダになりました！

そしてショゾは二つも通つることを書いています。

次回、ミッション発動！

MISSHOZ? 1 (前書き)

シェゾ「おい作者。」

あ、
シェゾ。
何？

シエゾ「前回はよくも俺に恥をかかせてくれたな……（怒）。」

え、いや、ちよつと待てよシヨソ君!!

シヨソ一徒(一)と謂われて徒(一)者はいなし。

シエゾ「ふん、自分の罪の重さを知るが良い。」

「ウイツチ「作者がやられたので私がコールしますわ。」では逃走中、
はじまりますわ。あ、あと……。」

シェゾ「なんだ?」

「前回のネタが結構評判良くていろいろな作者さんから感想が来ていましたわよ。」

シェゾ「何い！？」

MISSION? 1

現在のゲーム残り時間 152分11秒。

残る逃走者 33人

現在2人の逃走者が確保され、残るは33人となつた。

果たして、逃げ切るものは現れるのか！？

フラン「やつと言えばアイテムがひつたのかしら……？」

現在宝箱は4つ開けられており残るは2個となつている。

フラン「でもどこにあるかわからないし……。」

シェゾ「くそつ……また言つてしまつた。」

現在宝石の館付近にやつてきたシェゾ。

シェゾ「今度からは気をつけないとな……。」

と、そこそこ…。

ハンター「…。」

ハンターだ…。

シェゾ「…。ハンターか…。」

いち早くハンターに気付いたシェゾ。

ハンター「…。」

ビリヤーからハンターには気がつかれていない。

シェゾ「不味いな…距離を取つておくか…。」

急いで距離を取る。

ハンター「…。」

無事、気付かれなかつたようだ。

シェゾ「あぶねえ…。」

この王国に海賊が向かつてゐる中…国王は…。

国王（演・新川）「ちょっと覗いてみますか…。」

呑気に住民たちのことを観察していた。

国王（演・新川）「今日も平和ですね…？あれは何でしょつか…？」

国王が見つめる先には緑の森のパーティー広場に置かれた謎の木箱…。

国王（演・新川）「不思議な物ですね…。」

そして…。

今宵「…」うちの設置は完了したな。後は…これだけかな…。」

そして、町広場に3個のハンターBOXが出現した…。

今宵「…」しかし今回の逃走中…自首の方法を少し変えた方がよかつたな…。」

そして、此処は別の場所…。

? 「おい、ハンターの機密ファイルはコピーできそうか？」

? 「…」いえ、ロックが掛けられていて、今のところは…。」

? 「…」うか…あのハンター機密ファイルは我々の計画に必要なのだ。一刻も早くコピーしない。」

? 「は、はい！」

? 「しかし…」コピーしたとなると此処の居場所を探られてしまう…。

人質が必要だな……そうだな……やつの逃走中にすべて出ている逃走者なんかが適任か……。」

謎の影が動いていた……。

なのは、何々メール?」

スネーク - ミッショントラブル 来たか。

アルル「『エリア内に3つのハンターボックスを設置した。』え！」

当麻「『残り140分になるとエリアに解き放たれ、その数は最大で9体となる。』これ以上増えたら逃げ切るやついらないんじやないか！？」

ドラゴン放出を阻止するには緑の森のパーティーアークに設置された木箱の中に入っている銅貨を使い、ハンター・ボックスを封印しなければならない。』『銅貨？』

ミッショングループは、ハンター放出を阻止せよ！

エリア内の王の城、並木通り、町広場にハンターボックスが設置された。

ハンターは残り140分になるとエリアに解き放たれる。

ハンターボックスを封印するにはパーティー広場に設置された木箱の中に入っている銅貨をハンターボックスにセットし、封印しなければならない。

なのは「ミッショント…もちろん行くよ！」

当麻「行ってみますかねえ…。」

アルル「よーし、行こうつー。」

アミティ「行ってみるよー。」

魔理沙「ハンター増やしたくないからな！行くぜー！」

シグナム「おつ、パーティー広場…近いぞ！」

現在ミッショントに向かうのはこの6人。

シグ「ミッショント…興味無い…。」

レミリア「まだ大分残っている人数多いし…任せるわ…。」

ヴィータ「はあミッショント…んなもん行くわけねえだろ！あんなもんハンターに捕まるようなもんだろ！此処は任せる。だってリーダーとか美琴つてやつとかミッショントに積極的なやつがたくさん残つ

てるからなーあいつらがやつてくれんだなー。」

美琴「縁の森…」じつちね!」

ミッションに向かう御坂。

ハンター「…。」

しかし…ハンターが接近…。

美琴「早く…！ハンター！」

ハンター「…！」

見つかってしまった…。

美琴「速い…。」

驚異の身体能力で逃げる御坂。その逃げる先に…。

ルルー「あ、あの子…。」

ルルーだ。

美琴「ハンター来てるわよ!」

ルルー「ええ…？ちよつと何してんのよ…」

巻き添えを食らい、逃げるルルー。

美琴「はあ…はあ…。」

ルルー「ちょ、先に行かないでよ！」

御坂がルルーを追い抜き、ハンターの標的がルルーに変わった！

ルルー「速すぎるわよこいつ！なつ！？」

ルルー ポン
ルルー 確保 残り 32人

ルルー「きい～！あの小娘～！私を追い抜くなんて～！許さないん
だから～！」

巻き添えを食らつた…。

美琴「はあ…はあ…大丈夫かしら…。」

フェイト「確保情報…。『花園の丘にてルルー確保。』

シャマル「『残り32人。』…また捕まつたわ…。」

サタン「ルルーが捕まつてしまつたか…。」

シェゾ「何…？あいつ結構足速いぞ…それでも捕まつてしまつとは…。」

美琴「うわ…悪いことしたな…。」

シグナム「よし、パーティー広場に着いたぞ！」

一番乗りでパーティー広場に付いたのはシグナム。

シグナム「木箱木箱…これが…。」

ガタツ

シグナム「これをハンターボックスにはめて封印すればいいんだな。」

「

シグナム、ハンター放出を防ぐため、ミッショングに向かう…

シグ「むう…。」

現在、縁の森に隠れているシグ。

スタッフ「ミッショングにはいかないんですか？」

シグ「//シシ四ノ世...」

シグの目の前をハンターが通り過ぎた。

シグ「たぶん今動いていたら捕まつてたよ。だから任せやる。」

ミッションに行く様子は無い……。

十六夜「緑の森…」つちですね…。」

ミッションに向かう十六夜。

十六夜「ハンターの放出は何としても阻止しませんと…」

スバル「なのはさんやはシラクシラム」に行つてこぬと懸ひるで「シラム」行きますー。」「

こちらもミッションに向かうスバル・ナカジマ。

スタッフ「何で行くんですか?」

スバル「何もせずに捕まるよりは何かして捕まつた方が良いから…」

L

サタン「何だ何だ？ハンターつていざ探すと全然いないな…。」

冷凍銃を獲得しているサタン。しかし、ハンターが見つからない。

サタン「どこにいるのだ…。」

リデル「ハンター怖いです…。」

ハンター「ビビるリデル。その近くに…。」

ハンター「…。」

ハンター「…。」

リデル「…あつ、ハンターです！」

ハンター「…！」

見つかった…。

リデル「さや、さやああ～！」

逃げる先に…。

アルル「うわっ、サタン！何すごい物持つているの？」

サタン「おおー！アルルか！これはな、冷凍銃と言つてな…。」

アルルとサタンだ…。

リデル「た、助けてください！」

アルル「あ、ハンター！」

サタン「おお、ハンターが来たか…こっちに来いハンター！」

リデルがサタンとアルルを追い抜く。

アルル「うわ～ハンター来てる～！」

サタン「ふつ、お前、今すぐに此処から消えろ。そもそも…。」

ハンター「…。」

サタン「ふよ地獄行きだー喰らえ！」

プシュー！

ハンター 1体冷凍 ハンター 4体

サタン「ふう…どうだアルル、私がハンターを凍らせた勇姿はどう

だ？」

アルル「ありがとサタンー！」

サタン「あつ、行つてしまつたか…。」

リデル「あ、あの…。」

サタン「何だ？」

リデル「助けてくれてありがとうございますー！お兄様ーーー！」

サタン「あ、お兄様だとー？」

リデル「え、えへへ…。」

サタン「その呼び方、むずかゆいのだが…まあ今日は許してやる。」

リデル「あ、ありがとうございますー。」

サタン「でも次はやめてくれないか？」

リデル「分かりましたー！お兄様！あつ…。」

サタン「あのな…。」

インテックス「仲いいなー…。」

フラン「何？通達…。」

フェイト「『サタンが使った冷凍銃によりハンター1体が除外された。』『』

ドラゴ「えー？あいつやるなー！」

アリス「これで少しば楽になる…。」

シグナム「これがハンターボックスか…。」

並木通りのハンターボックスにたどり着いたシグナム。

シグナム「見た所此処にはめればいいんだな？」

そして、手に持っている銅貨をはめる。

シグナム「よし、あとまううして…。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り2個

シグナム「よし、封印したぞ!」

シグナムによつてハンターボックスがひとつ封印された。

現在封印されてないのは2個。

現在の残り時間は145分21秒。

果たして、すべて封印されるのか!?

MISSION? 1 (後書き)

なのは「サタン田立つてゐる。」

シゴ「あのおっさん田立つてゐるな……。」

フラン「田立つてゐるね～。」

MISSZONE? 2 (前編)

すこません。

吊り橋じゃなくて跳ね橋でした。

謝りたねやま。

MISSION? 2

エリア内にハンター ボックスが設置された。

残り140分までにハンター ボックスを封印しなければ、ハンターが解き放たれる。

現在シグナムが並木通りのハンター ボックスを封印し、残るは2個。果たして、すべてクリアできるのか！？

ウイッチ「誰か行ってるんですの？」

現在神秘の噴水付近にいるウイッチ。

ウイッチ「早く誰か行ってくれませんとハンターが出てしますわ！」

自分はミッションに行く気はない…。

魔理沙「パーティー広場着いたぜ！」

パーティー広場に着いた霧雨。

魔理沙「木箱はこれが！」

そして、木箱の中の銅貨を取る。

霧雨魔理沙 銅貨獲得

魔理沙「よつしゃーー。//シショソンクリアしてやるぜー。」

//シショソンに闘志を燃やす。

フューリ「先輩は行つてゐのかしら…。」

花園の丘にいるフューリ。

フューリ「一回電話してみるワ。」

ピリリリ…。

レムレス『やあフューリ。一体どうしたんだい？』

フューリ「あの…先輩は//シショソンに行つてゐるんですか？」

レムレス『そのことだけど…今ハンターが近くにいて動けないんだ。だから行きたくても行けないんだ。』

フューリ「そ、そつなんですか…。」

レムレス『近くにいるハンターがどこかに行つたら僕もハンターに行こうと思つんだ。』

フェーリ「そ、そつなんですか…先輩頑張つてください!」

レムレス『うん、フェーリも頑張つてね!』

ピッ!

フェーリ「…先輩のためにも頑張るワ…。」

フェーリ、ミッショソに向かう。

レムレス「うーん…ハンター中々行かないなあ…。」

レムレスはハンターに動きを制限されていた。

十六夜「着きました…。」

十六夜も銅貨を取りにきた。

十六夜「これですね…。」

十六夜咲夜 銅貨獲得

十六夜「早く行きませんと…。時間がありません…。」

はやて「ミッションは行動力のある人が行つてると思つたやけどな
～。」

現在王の城にいるハ神。

はやて「いまさら行つても遅いと思つし…任せよっか…。」

現在残り時間は142分01秒。はやてのいる位置からパーティー
広場に向かつても間に合わない。

当麻「此処がそうか…。」

パーティー広場にやつてきた当麻。

当麻「これが！」

上条当麻 銅貨獲得

当麻「やべえ！時間がねえ！あと2分もねえ！」

果たして、間に合つかー？

「誰か行つてゐるのかなー。」

ミッショーンに他人任せなドーラコ。

「早く封印してくれないかなー…。」
しかし…。

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

ドーラコ「電話して行かそつかな?」

ハンター「…。」

見つかった…。

「えーと…うわー…来てるーー!」

半竜半人のドーラコケンタウロス。果たして振り切れるのかー??

「うわああーー速いよーー!」

ポン

ドラゴンケンタウロス 確保 残り 31人

ドラゴ「うへえー：ハンター速すぎるよー…。」

魔理沙「ハンターボックスに着いたぜ！」

町広場のハンターボックスに着いた霧雨。

魔理沙「此處にセットして…おりやあーー！」

ガシャン！

ハンター ボックス 封印 残り2個

魔理沙「やつたぜ！」

残るは王の城のハンターボックスだけ…。

現在向かっているのは十六夜と上条だが近いのは十六夜の方！

その距離、200メートル！

果たして間に合つのか！？

ハンター放出まで1分…。

十六夜「はあ…はあ…。」

当麻「やばいな…今行つても無理か…。」

上条、ミッシュョンを諦めた。

十六夜「間に合つのでしょうか…。」

ハンター放出まで30秒を切つた！

十六夜「…ハンターいませんね…。」

フラン「誰が行つてるのかな～？」

アリス「不味い…もうすぐ出放だよ…。」

ハンター放出まであと20秒。

十六夜「見えてきました！」

ハンターボックスに近づいてきた十六夜。

なのは「…あつ…不味い…。」

ヴィータ「誰か行つてねえのか？」

ハンター放出まで10。

9。

8。

7。

6。

5。

十六夜「着いた！セツトして……。」

4。.

十六夜「せーの……」

ガシャン！

ハンター ボックス 封印。

MISSION CLEAR

十六夜「や、やつました……。」

ピリリーピリリー！

リデル「メールです……。」

フラン「『シグナム、霧雨魔理沙、十六夜咲夜の活躍により、ハンターフィールド、放出は無し。』」

ヘミコア「やつてくれたのね……。」

靈夢「魔理沙すごいわね……。」

魔理沙「へつへーん！ どんなもんだぜ……。」

シャマル「皆さんすいですね…。」

ヴィータ「ほらなー行ってくれる奴がいただろー」
「任せとけばいいんだよ。」

ミッションに全く無関心なヴィータ。

ヴィータ「知らない間にクリアしてくれるからいいもんだよなあ。」

インテックス「…ハンター…。」

ハンターを見つけたインテックス。

インテックス「離れとこ…。」

その場を離れる…。

インテックス「ふう…危ない危ない…。」

その先に…。

魔理沙「ミッションをクリアすると気分が良いな…。」

ミッションに貢献した霧雨。

インテックス「…ありさめだつたつけ？」

魔理沙「おう…そうだぜ？」

インテックス「ミシショノクリアできるなんですか」いね。

魔理沙「ま、このぐらに行けるぜ！」

インテックス「へ。」

ミシション？が終了し、残る逃走者は31人となつた。

しかしその後、逃走者たちにまた別の恐怖が襲つ…。

MISSION? 2 (後書き)

ハンター放出の危機を逃れた逃走者たち。

しかし次回、逃走者にまた新たな恐怖が
…！？

逃走者に新たなる危機！！ MISSHOZ? 1 (前書き)

ミッション?を無事クリアした逃走者たち。

しかし、また新たなる危機が！？

逃走者に新たなる危機！！ MISSION?1

スバル「ミッションに参加できなかつたのが悔しいな……。」

先ほどのミッションで活躍できなかつたスバル。

スバル「次のミッションは絶対に行くぞ！」

シグ「おお～…虫だ～。」

緑の森で未だに隠れているシグ。
シグ「かっこいいな～…！」

しかし、ハンターを見つけた。

シグ「不味い…。」

身を隠すシグ。

ハンター「…。」

シグ「…。」

見つかからなかつたようだ…。

シグ「あ、危ない…。」

ティアナ「みんなよくやつてくれていいわね……。」

花園の丘の風車の陰に隠れるティアナ。

ティアナ「でも信用できなー……。」

ピココー・ピココー・

魔理沙「ん? アリスからだぜ?」

逃走者同士の通話は可能。

アリス『魔理沙! す、いじやんメールに名前載つてたよー。』

魔理沙「ああ……確かミシシヨンをクリアしたからだなー。」

アリス『へえー……す、るー……。』

魔理沙「まあお互い頑張ろうつなー。」

アリス『うんーじゃあねー。』

ピッ！

アリス「魔理沙頑張つてるなあ……。」

シグナム「ミッショソ…行けたな…。」

先ほどミッショソに貢献したシグナム。

シグナム「次のミッショソも頑張るぞ。」

そのころ、王国では…。

大臣（演・KAITO）「大変です！王様！」

国王（演・新川）「な、何事だー？」

大臣（演・KAITO）「現在この国に海賊が接近中ですー。」

国王（演・新川）「な、何だとー？」

大臣（演・KAITO）「さうこの国に海賊の接近がいるとの情報も…。」

国王（演・新川）「うつむ…。その海賊についての情報は無いのか？」

大臣（演・KAITO）「あ、はい！右腕に碇の模様があると…。」

国王（演・新川）「そうか…。」

大臣（演・KAHTO）「どうしまじょつか…。」

国王（演・新川）「怪しい奴はひとついたわー。そして海賊のやつらも見つけたらひとつとらえるのだ！」

大臣（演・KAITO）「は、ははーーー！」

国王（演・新川）「ううむ…海賊か…。」

大臣（演：KAITO）—王様—！」

五(演:新川) なんじゃ!? 床にきて。
「

力団（演：KAII TO）・「この国で怪しい奴らの田事情報が…」

國王（演・新川）――なるほど…今すぐ[に]掲示板にそのやつらの顔の絵を張り、そのやつらの顔を書いた紙を国中に撒くのだ！」

大臣（演・KANTO）「はははははははは

バラバラバラバラ…。

民衆「何だ何だ！？」

住民1 「IJの国に怪しい奴らが逃走中!?

住民2「見つけた者は王の城まで！？」

大臣（演・KAITO）「怪しい奴はすぐこいつとうえるんだ！」

兵士たち「ははーーー！」

この出来事が逃走者たちに新たな試練となつて降りかかる！

はやて「…え？何々？」

美琴「騎士たち？」

リデル「何か騒がしいです…。」

フェーリ「…何？王の城から紙が…。」

シグナム「怪しい奴らがこの国で逃走中！？」

サタン「一体何だこれは！？」

レニア「一体何なのよ…。」

ピコ…ピコ…。

レニア「何？メール？」

当麻「ミッシュン！来た来た…。」

靈夢「『現在』の国に海賊が接近中だ。『海賊？』

クルーケ「『この国で怪しい奴らの田撃情報が国王にどじいたため、エリアに50人の兵士が放たれた。』へ、兵士?」

フラン「『兵士は君たちを見つけると笛を吹き、笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう。』つわあー…。」

ティアナ「『さらに、君たちの顔が書かれた紙が国中に撒かれたため、住民が君たちを見つけると、騒ぎ出し、その騒ぎを聞きつけたハンターが確保に向かう。』」

シェゾ「『疑いを晴らすには王の城にいる王国と大臣に右腕を見せなければならない。』」

アリス「えーじゃあ絶対に動かなきゃいけないってことなんだ…。」

ヴィータ「…めんどくせー！」

ミッシヨン2 疑いを晴らせ！

国王に海賊の情報が入ったため、怪しい者を探すためにエリアに50人の兵士と逃走者たちの顔が書かれた紙がばらまかれた。兵士は、逃走者たちを見つけると笛を吹き、笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう。

そして、国の住民が逃走者たちを見つけると、騒ぎ出し、その騒ぎを聞きつけたハンターが確保に向かう。疑いを晴らすには王の城にいる国王と大臣に右腕を見せなければならぬ。

レムレス「よし……じゃあ行くつか……。」

ヴィータ「めんどくせえ……。」

フユーリ「……このじやないの……。」

当麻「さすがにこれは……。」

アルル「……兵士だ……不味いよ~動けないよ~……。」

ウイッチ「早く行きませんと……。」

王の城に向かうウイッチ。だがそこには……。

兵士「……」

兵士だ……。

兵士「いたぞーー。」

ピーチ……

ウイッチ「不味いですわー見つかりてしまござましたわー。」

ハンター「……」

笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう！
そして……。

住民1「こ、この人よ！」

住民2 「こいつだー！」

ウイッヂ「騒ぐなですわ！」

住民に、顔を見られた……。

ハンター

ウイッヂ「は、ハンターですわ！」

ハンターに見つかった。

「は、速すがゆわよ。…ああああああ」

ポン

ウイツチ 確保 残り 30人

「ウイック、もう少しひかわいのよ。ダメだ」つや。

アリス「『兵士、住民の通報により、ウイツチ確保。残り30人。』」

クルーク「さつそく捕まつたよ…。」

シェゾ「動くと不味いな…。」

ヴィータ「ほらここつ・ミッションに動いたから捕まつたんだよ…。ミッションに動いて捕まるなんてアホなやつだなあ！」

はやて「おっ！此処から近いやん！」

偶然、王の城にいたはやて。

黒子「此処からあそこに行けば…。」

白井も同じく王の城にいたようだ。

はやて「あー…なあ王つてビックりおんねん…？」

黒子「そんなのわかりませんの…。」

向かう先に…。

国王（演・新川）「…。」

国王と大臣だ…。

黒子「…もしかして、あの人じゃありませんの！？」

はやて「わらわや…多分あの人や…」

兵士1「…何者だ、お前ら…」

はやて「あつ、私ら座しこものじやないんじ…。」

黒子「あらへ」のかで…。」

はやて「あつ！確かリンク君ちやうしんでクロノ君、何してんの？」

兵士1（演・リンク）「リンク？誰だそれは？」

兵士2（演・クロノ・ハラオウン）「私たちは王をお守りする兵士だ！」

はやて「そ、そつなんかいな…。」

国王（演・新川）「で、何しに来たのじや？」

はやて「あ、私たち怪しいもののじやないんで…。」

国王（演・新川）「ならば右腕を見せるがよい。」

一人は右腕を見せる…。

国王（演・新川）「ふうむ…どうやら本當に違つよつだな。」

大臣（演・KAITO）「そのようですね。」

国王（演・新川）「疑つて悪かつた。」この免罪符を持つていぐがよい。

い。」

黒子「免罪符？」

国王（演・新川）「これを持つていれば兵士や住民に疑われる」と
もなくなるだらう。」

黒子「分かりましたの。」

はやて「ありがとな～。」

八神はやて 白井黒子 免罪符獲得

はやて「いやあ～…よかつたわ…。」

黒子「これで少しは安心ですわね。」

はやて「…一兵士…」

二人は国王からもらつた免罪符を兵士に見せる。

兵士「…疑つてすまなかつた。」

はやて「おお…免罪符す”いなあ…。」

レムレス「急がないと……。」

フェイト「やだよ……捕まりたくないよ……。」

ラフィーナ「……どこから行けばいいのよ……。」

逃走者たちに降り注いだミッション2。

それによりさつそく一人が捕まってしまった。

果たして、逃走者たちは「」のミッションを無事にクリアできるのか！？

現在 残り時間 134分48秒 残る逃走者 30人

逃走者に新たなる危機！！ MISSION? 1 (後書き)

「」の城付近の一番難しい所は住民と兵士に見つかってしまう王の城に向かうことです。

王の城付近にいた人はいいんですがかなり離れた場所にいる人は危険度がかなり高まります。

こう考えると緑の森と花園の丘にいた逃走者は不利かもしれません。

MISSION? 2 (前書き)

果たして逃走者たちは//シジョンをクリアできるのか…? …ってか
宝箱のこと忘れてた!

逃走者たち「おい。」

MISSION? 2

疑いをかけられた逃走者たち。

疑いを晴らすには王の城の前にいる国王と大臣に右腕を見せなければならぬ。

現在2人がミッションをクリア。

果たして全員クリアできるのか！？

当麻「何で俺たちが疑いをかけられたんだ…？」

アミティ「王の城に行けばいいんだね！」

シェゾ「くつそー。」

サタン「…！あれだな…。」

王の城に着いたサタン。

サタン「お前がこの国の王か？」

国王（演：新川）「！？何者だお前は！？海賊の仲間か！？」

サタン「いや、違つた。」

大臣（演・KAITO）「なら右腕を見せて下さー。」

サタン「これでいいか？」

国王（演・新川）「…違つようだな…。疑つて悪かった。これを持つていれば騒がれることは無くなるだろ。」

サタン「ふつ、当たり前だ。」

サタン 免罪符獲得

サタン「この城の近くにいてよかつたな。」

シェゾ「こじか！」

フェーリ「着いたわ。」

なのは「よかつた。」

シェゾ、フェーリ、なのはの3人が王の城に着いた。

国王（演・新川）「なんだね君たちは？」

フェーリ「私たちは怪しいものじゃないワ…。」

シェゾ「ああ、それを証明しに来た！」

大臣（演・KAITO）「だったら右腕を見せて下さい。」

フェーリ「これでいい…？」

なのは「ほら。」

シェゾ「ほらよ。」

国王（演・新川）「…どうやら違うみたいだな…。ならこれを持つて行きなさい。」

シェゾ・ウイグイイ フェーリ 高町なのは 免罪符獲得

なのは「ありがとうございます！」

シェゾ「よしそークリアしたぞー！」

エリアには50人の兵士と逃走者たちを疑う住民たち。もちろん見つからないように移動するのは難しく…。

住民1「この人！怪しい人よ！」

フラン「何よー！」

フランが…。

住民1「こいつだー！」

住民2「誰かーー！」

スバル「怪しいものじゃなーってばーーー！」

スバルが…。

兵士「見つけたぞーー！」

ピーッ！

ラフィーナ「笛を吹かないでほしいですわ！」

ラフィーナが…。

兵士「ここつだーー！」

ピーッ！

靈夢「な、何よー！」

靈夢が見つかっている…。

アイク「くつそく…。」

現在建物の影に隠れているアイク。

アイク「…！ハンター…。」

ハンターを見つけた…。

アイク「来るな…来るな…。」

ハンター「…。」

見つかからなかつたようだ…。

アイク「マジあぶねえ…。」

その後…。

アルル「よかつたよ…。」

フュイト「これでいいんだ…。でも何でお兄ちゃんが？」

レムレス「まずは一安心だね。」

アルル、フュイト、レムレスがミッションをクリア。

アルル・ナジャ フェイト・T・ハラオウン レムレス 免罪符獲得

ティアナ「中々移動できない…。」

未だに移動できていないティアナ。

ティアナ「住民が…邪魔で…あつ…そうだ!」

何かを思いついたようだ。

ティアナ「住民は顔しか見てないんだから…。」

アリス「中々移動できないじゃん…。」

城下町にいるアリス。そこには…。

兵士「…。」

ピーッ！

アリス「えつ…?えつ…?」

見つかってしまった…。

アリス「不味い！早く移動しないと…。」

しかし…。

ハンター「！」

その笛の音をハンターが聞きつけた…。

アリス「ハンター来てないかな…。」

ハンター「…。」

アリス「不味い！来てる！」

ハンターを見つけ、一目散に逃げるアリス。しかし、逃げ切れるわけもなく…。

アリス「キャアアアアアアア…！」

ポン

アリス「もう…終わり…？」

兵士と住民に見つかればその音を聞きつけたハンターが確保へと向

かう。

アリス・マーガトロイド 確保 残り 29人

レミコア「『城下町でアリス・マーガトロイド確保。残り29人。』」

美琴「見つかってるのね…。」

シャマル「王の城に着きました…。」

王の城に来たシャマル。

シャマル「…あれ? 何で…。」

兵士2（演：クロノ・ハラオウン）「何だ? どうした?」

シャマル「い、いや…。」

国王（演：新川）「何しに来たんだ?」

シャマル「あ、私怪しいものじゃないんで…。」

国王（演・新川）「なら右腕を見せろ。」

シャマル「はい…。」

大臣（演・KAITO）「…この人も違つようですね…。」

国王（演・新川）「そうか…ならこれを持つていくがよい。」

シャマル「ありがとうございます。」

シャマル 免罪符獲得

現在、免罪符を獲得したのは…八神はやて、白井黒子、サタン、シエゾ・ウイグイイ、フェーリ、高町なのは、アルル・ナジヤ、フェイト・T・ハラオウン、レムレス、シャマルの10人。

そして、クリアしていないのは…シグナム、ヴィータ、スバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、スネーク、アイク、博麗靈夢、霧雨魔理沙、十六夜咲夜、レミリア・スカーレット、フランドール・スカーレット、上条当麻、インデックス、御坂美琴、アミティ、シング、ラフィーナ、リデル、クルークの19人。

果たして全員クリアできるのか！？

残り時間128分23秒 残る逃走者29人

MISSION? 2 (後書き)

アイテム誰が取るかなあ……？

MISSUHON? 3 (ミスホン?)

//シ ハンノ... まだまだ続もある。

つてかこいつ終わるのやい...。

MISSION? 3

逃走者全員に海賊の疑いがかけられた。

疑いを晴らすには王の城にいる国王と大臣に右腕を見せなければいけない。

現在10人がクリア。

クリアできていないのは19人。

果たして全員クリアできるのか！？

当麻「…やべつ！住民いた！」

住民を見つけた上条。

当麻「中々移動できねえよ…」

動きを制限されている。

クルーケ「うう…動くか…。」

しぶしぶ移動を開始するクルーケ。

クルーク「何で僕らが疑いをかけられないといけないのさ…。」

スネーク「此処からどう移動するか…。」

慎重に行動するスネーク。

スネーク「見つかったらお終いだからな…。」

その近くに…。

リデル「うう…人がいっぱいいます…。」

リデルだ。

リデル「…はう…えっと…スネークさんですか?「こんな所で背を低くして何をしているんですか…?」

スネーク「ああ。ハンターに見つかれないように背を低くして行動しているんだ。」

リデル「そなんですか…。」

そこには…。

兵士「…。」

兵士が接近……。

ピーッ！

リデル「きやああーー！」

スネーク「不味い！逃げるぞー！」

バラバラに逃げる二人。

ハンター「……！」

近くにいたハンターが、笛の音を聞きつけた。

リデル「不味いです……！」

スネーク「ハンターいるのか……？」

ハンター「……！」

ハンターに見つかってしまったのは……。

リデル「……ハンターです……！」

リデルだ……。

リデル「キャアアーー！」

ポン
リデル 確保 残り 28人

リデル「うう…残念です…」

スネーク「はあ…はあ…！」

スネークは偶然にも王の城に着いた。

国王（演・新川）「！なんだね君は？」

スネーク「俺は怪しいものじゃない。」

大臣（演・KAITO）「ならば右腕を見せて下さい。」

スネーク「こ…うか？」

国王（演・新川）「…どうやら君も違うようだな…分かった。これを持つていくがよい。」

スネーク 免罪符獲得

スネーク「ふう…なんとか疑いは晴らせたな。しかし…大丈夫なの

か…？

アルル「あつ！『リデル確保。残り28人。』だつて…。」

スネーク「あの後捕まつたか…。」

レムレス「皆クリアできているのかな…？」

他の逃走者たちを心配するレムレス。

レムレス「…？これは…。」

レムレスが見つけたのは…。

レムレス「宝箱…あつ、通達の…。」

宝箱だ。この宝箱は通達1の宝箱である。

レムレス「もうすぐ120分だし…取つておくか。」

その中身は…。

ガタッ

レムレス「…黒い…サングラス?」

中に入っていたのは『無敵サングラス』。これを使えば一分間、ハンターに追われなくなる。

レムレス「これはラッキーだね。さっそくもらっておこうかな。」

残る宝箱は1個!

シグナム「これは…。」

その宝箱をシグナムが見つけた。

シグナム「何だろう…。」

その中身は一体…。

ガタツ

シグナム「これは…双眼鏡?」

中に入っていた最後のアイテムは『双眼鏡』。これを使えば遠くにいるハンターも確認することができる。

シグナム「視野が狭くなるのは危険だが…無いよりはマシか?」

これで、すべてのアイテムが獲得された。

サタン「ほう…王の城、か…。」

王の城を眺めるサタン。

サタン「中々立派だが私が立てた私とアルルのスイートホームのD×サタン城と比べるとまだまだだな…。」

アミティ「此処だ! 王の城!」

十六夜「来れました…。」

インデックス「頑張つたらいけたよ…。」

アミティ、十六夜咲夜、インデックスが王の城に到着。

国王(演・新川)「君たちは…。」

アミテイ「私たち、怪しいものじゃありません！」

大臣（演・KAITO）「じゃあ、右腕を見せて下さー。」

インデックス「はい。」

国王（演・新川）「……どうやら本当にうだな……。じゃあこれを……。」

十六夜「ありがとうございます……。」

アミティ 十六夜咲夜 インデックス 免罪符獲得

アミティ「クリアできたね！」

ミッションをクリアした3人に……。

ハンター「……！」

ハンターが接近……。

アミティ「ハンター来たよーーー！」

十六夜「こ、こんな時に……。」

ハンターが視界にとらえたのは……。

十六夜「いじりですか……。」

十六夜だ…。

十六夜「私も負けではござれません!」

建物角を利用して、ハンターとの距離を広げる。

ハンター「…?」

そして、ハンターを撒いてしまった。

十六夜「危なかつたですね……。」

そのハンターが…。

靈夢「あと少し…。」

博麗に接近！

靈夢「…！ハンター…。」

そして、見つかってしまった…。

靈夢「さすがにこれは…。」

ポン

博麗靈夢 確保 残り 27人

靈夢「あと少しの所まで来ていたんだけどね…。」

幻想郷で最強と言われる博麗、ニッショーンをクリアできず…。

インテックス「怖かつた…。」

アミティ「咲夜さん、大丈夫かな…？」

魔理沙「えつ！？靈夢が捕まつた！！」

アルル「残り27人だつて…。」

十六夜「此処から場所が近いですね…先ほどのハンターが…。」

ヴィータ「絶対に動かねえといけねえのかよ…。」

未だに動く気配のないヴィータ。

ヴィータ「もうクリアしている奴に連れて行ってもらおう…。」

誰かに電話をかける…。

ピコリーピコリー！

その相手は…。

シャマル『なんですか？電話してきて…。』

同じウォルケンリッターの一人、シャマルだ。

ヴィータ「シャマルか！ミッショーンはもうクリアしたのか？」

シャマル『え、ええ。もうクリアしましたよ。』

ヴィータ「だつたらあたしを王の城まで連れて行ってくれねえか？」

シャマル『えー？』

ヴィータ「あたしは城下町の宝石の館付近の草の茂みにいるからー。」

シャマル『ちよ、ちよつとい..』

ピッ！

シャマル「で、電話切れちゃった…。」

ヴィータ「自分で行くと見つかるからなー…。」

他力本願の、ヴィータ…。

シャマル「頼まれたら……行くしかないですよね……？」

ヴィータのもとに向かうシャマル。

シグ「……行くか……。」

シグは移動を始めた。

シグ「こっちの方向か……。」

アイク「よし！ 着いた！」

美琴「なんとかたどり着けたわ……。」

当麻「この俺だって頑張れば来れたぞ！」

アイク、御坂美琴、上条当麻が王の城に到着。

国王（演・新川）「君たちは……。」

アイク「海賊じゃないし怪しい者でもない！」

国王（演・新川）「では右腕を……。」

アイク「ほらよ。」

国王（演・新川）「この人たちも違うみたいだな…。では、これを…。」

アイク　御坂美琴　上条当麻　免罪符獲得

当麻「よつしゃ――――――」

美琴「大きな声出さないでくれる！？ハンターに見つかっちゃうんのよ…。」

当麻「す、すまん…。」

現在残り時間　118分26秒　残る逃走者27人

MISSION? 4 (前書き)

平日に更新。

土曜参観で今日が代休になりましたので。

MISSION? 4

現在クリアできていないのはシグナム、ヴィータ、スバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、霧雨魔理沙、レミリア・スカーレット・フランドール・スカーレット、ラフィーナ、シグ、クルーグの10人。

果たして全員クリアできるのか！？

フラン「まだ距離があるな……。」

王の城まで距離があるフラン。

フラン「行けるかな？」？

たどり着けるのか！？

クルーグ「慎重に…慎重に…。」

慎重に行動するクルーグ。

クルーグ「ハンターに見つかったら終わりだからね…。」

しかし、その近くにハンター…。

クルーケ「……いた……。」

ハンターを見つけ、急いで隠れる。

クルーケ「早く過ぎてくれよ……。」

ハンター「……。」

クルーケ「言つたかな……？」

ハンター「……。」

見つかからなかつたようだ……。

クルーケ「もう……だから動きたくないんだよ……。」

ティアナ「早く早く……。」
地図で顔を隠すティアナ。

顔を認識されなければ、住民には騒がれない。

レニア「なんとか着いたわ……。」

レニア「王の城にやつてきた。」

国王（演・新川）「？なんだお前は？」

レニア「早く……それを……。」

国王（演・新川）「待て、まずはお前の右腕を見せてみる。」

レニア「早くして……。」

国王（演・新川）「……どうやら違つてしまふだな……ならこれを……。」

レニア・スカーレット 免罪符獲得

レニア「早くしてよね……。」

その後……。

スバル「よしつ……！」

ティアナ「なんとかたどり着いたわ……。」

ラフィーナ「やつと手に入れたわ……。」

スバル、ティアナ、ラフィーナが獲得。

スバル・ナカジマ ティアナ・ランスター ラフィーナ 免罪符獲得

これで獲得できていなければシグナム、ヴィータ、霧雨魔理沙、フ
ランドール・スカーレット、シグ、クルーケの6人となつた。

フェーリ「レムレス先輩…どこなの…。」

すでにミッションをクリアしたフェーリ。

フェーリ「…ハンター発見…。」

その近くにハンター…。

フェーリ「早く行ってくれないかしら…。」

その近くにもう一人の逃走者…。

黒子「免罪符獲得できてよかつたわ…さてと…どうしましょ…。」
白井だ…。

ハンター「…。」

フューリー「…。」

黒子「まずは逃げ場所を確保しておかなければ…。」

ハンター「…！」

ハンターが逃走者の姿をとらえた。見つかったのは…。

黒子「…！ハンター見つけたわ…。」

白井だ…。

フューリー「ハンター走つて行つたわ…。」

黒子「こっちに逃げましょ…。」

逃げた先は…。

黒子「な…！？行き止まり…！？」

そこは行き止まりだった。

黒子「…ハンター来たわ…。」

追い詰められた…。

黒子「くつ…。」

ポン

白井黒子 確保 残り 26人

黒子「行き止まりに追いつめられるなんて…不覚だわ…。」

アルル「『城下町付近にて、白井黒子確保。残り26人。』」

美琴「黒子が捕まつた…。」

シェゾ「さて…隠れるか…。」

トンネルの下に隠れるシェゾ。

シェゾ「少しばは闇があつた方が良いな。落ち着く。」

闇の魔導師、トンネルの中に隠れる。

シャマル「ヴィータ…。」

ヴィータ「……」「ひひひひひ……」

シャマル「もう……探したわよ……。」

ヴィータ「とりあえず連れて行つてくれよ……。」

シャマル「もう……つてハンター來たわよ……。」

ヴィータ「こんな時にか……？」

二人がハンターに見つかった。

シャマル「二手に分かれるわよ……。」

ヴィータ「お、おう……！」

一手に分かれる。ハンターが視界にとらえたのは……。

シャマル「こっちに来た！」

シャマルだ……。

シャマル「不味い不味い……追いつかる……。」

その近くに……。

フラン「もう少し……つてハンター連れてきてる……。」

フランだ…。

フラン「逃げようーー！」

シャマル「キヤアアアアーーーー！」

ポン

シャマル 確保 残り 25人

シャマル「捕まつた…。」

ヴォルケンリッターの一人、撃沈…。

ヴィータ「な、なんとか撒けたぜ…。」

ヴィータは無事逃げたようだ。

シグナム「シャマルが捕まつたか…。」

フラン「さつき走つてた人…捕まつちゃつた…はあ…はあ…。」

ヴィータ「…あ、お城だ…。」

ヴィータ、お城に到着。

クルーケ「着いたよ～。」

クルーケも着いたようだ。

国王（演・新川）「誰だ！？」

ヴィータ「あ…免罪符…ちょ、それ…。」

大臣（演・KAITO）「待って下さい。まずは右腕を…。」

ヴィータ「ほらよ…。」

クルーケ「無いから早くしてよ…。」

国王（演・新川）「…よしわかった。これを…。」

クルーケ「はいはい…。」

国王（演・新川）「む…」

ヴィータ クルーケ 免罪符獲得

フラン「怖かつた～。」

フランがヴィータ達と入れ違いで到着。

国王（演・新川）「誰だね？」

フラン「怪しいものじやありませんー。」

大臣（演・KAITO）「では、右腕を見せて下さい。」

フラン「はいはい…。」

国王（演・新川）「無いな…分かった。これを持って行きなさい。」

フラン「ありがとーー！」

フランドール・スカーレット 免罪符獲得

フラン「これで住民とかに騒がれないんだよね…。」

シグナム「不味いな…。」

シグ「全然たどり着けない…。」

魔理沙「住民がたくさんいて邪魔なんだぜ…。」

現在クリアできていないのはシグナム、霧雨魔理沙、シグの3人。

果たしてクリアできるのか！？

ゲーム残り時間 106分02秒 残る逃走者 25人

MISSION? 4 (後書き)

次回、ミッション2、終了!

MISSION? 5 (前書き)

今回で「ミッション」は終了です。

果たして全員クリアできるのか…?

MISSION? 5

ミッションをクリアできていないのはシグナム、霧雨魔理沙、シグの3人。

彼らは王の城に行き、免罪符を獲得しなければならない。

果たして、クリアできるのか！？

シグ「早く行かなきや〜。」

王の城に向かうシグ。

シグ「騒がれて捕まりたくないよ〜。」

シグナム「主はやはてはクリアしたのか…？」

ハ神を心配するシグナム。
シグナム「…王の城か…。」

王の城に着いたシグナム。

国王（演・新川）「誰だ！？」

シグナム「怪しいものではないって何でお前が此処に?」

兵士2（演・クロノ・ハラオウン）「誰だお前。」

大臣（演・KAITO）「早く右腕を…。」

シグナム「あ、ああ…。」

国王（演・新川）「…無いようだな。ではこれを…。」

シグナム「済まない。」

シグナム 免罪符獲得

シグナム「恩に着る。お礼とは何だが握手を…。」

国王（演・新川）「あ、ああ。」

兵士1（演・リンク）「お前! 王様に無礼な…。」

シグナム「お礼をしただけだ。何か悪いか?」

兵士1（演・リンク）「ぐつ…。」

国王（演・新川）「…可愛い娘じやつたの?」

兵士1（演・リンク）「王様…!」

兵士2（演・クロノ・ハラオウン）「しっかりしてください。」

これでクリアできていなければ一人。

クルーケ「もう自首しようかな〜。」

自首を狙うクルーケ。自首をすればそれまでの賞金を獲得できる。
クルーケ「だつて今36万円ぐらいでしょ〜? もうそれぐらいでいいよ〜。電話電話〜。」

クルーケ、自首に向かう。

魔理沙「不味いんだぜ〜。」

住民1「あ〜怪しい人!!!」

魔理沙「不味い! 見つかってしまったんだぜーーー!」

住民が騒げば……。

ハンター「……！」

ハンターを呼び寄せる……。

魔理沙「もう」のままお城に一直線だぜーー。」

急いで逃げる霧雨。

その霧雨の背後から…。

ハンター「…。」

ハンター…。

魔理沙「来ているんだぜー。」

建物の角をつまみ使い逃げる霧雨。

ハンター「…？」

なんと、ハンターを撒いてしまった…。

魔理沙「はあ…はあ…つてお城に着いたんだぜー。」

なんと、運よくお城に着いてしまった。

魔理沙「早く行くんだぜー。」

国王（演・新川）「誰だ…？」

魔理沙「あ、怪しいものじゃないかー。」

国王（演・新川）「右腕を見せてくれないか?」

魔理沙「どうか？」

大臣（演：KAITO）「無いですね……。」

国王（演：新川）「ではこれを……。」

魔理沙「ありがとうございます……！」

霧雨魔理沙 免罪符獲得

魔理沙「クリアできたんだぜ……。」

これでクリアできていよいのは……。

シグ「まだ着かないよ……。」

シグ、ただ一人！

シグ「早く行かなきや～……。」

ティアナ「どこに隠れようかな～……。」

エリアを移動中のティアナ。その近くに……。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

ティアナ「まずは此処が良いな～…。」

ハンター「…！」

ハンターに気付かれた。

ティアナ「う～ん…つてハンター来てるじゃない！…」

ティアナ・ランスター、逃げ切れるのか！？

ティアナ「ハンター速すぎるわよ～！」

ポン

ティアナ・ランスター 確保 残り 24人

ティアナ「何で捕まつたのよ～！…もう～…。ミッションクリアしたのに～…。」

シグ「不味いよ～。」

まだミツショーンをクリアできていないシグ。

シグ「…あ、ハンター…。」

ハンターを見つけた。

シグ「う～…。」

スバル「皆クリアできているのかな…？」

アルル「大丈夫かな～…。」

ハンター「…。」

シグ「向こうに行つた…今行こう。」

ハンターが遠く離れたすきにお城に向かつ。

シグ「王様～。」

国王（演：新川）「何だね君は？」

シグ「怪しい人じゃないよ～。」

大臣（演：KAITO）「では右腕を見せて下さいますか？」

シグ「はい。」

国王（演・新川）「無いようだな…ではこれを持って行きなさい。」

シグ「ありがとう。」

シグ 免罪符獲得

全員 MISSION CLEAR

シグ「良かつた～クリアできた～。」

ラフィーナ「あ、シグ。クリアできたの？」

シグ「あ、ラヘーナ。ラフィーナ。クリアできた。」

ラフィーナ「一瞬名前間違えたけど…まあいいわ。クリアできても
かつたわね。」

シグ「う～…。」

レミコア「…メール来たわ…。」

当麻「『全員が疑いを晴らし、ミッションクリア。』」

アイク「全員クリアできたのか！」

なのは「よかつた！」

全員が疑いを晴らし、ミッションをクリアした。

果たして、逃げ切るものは現れるのか！？

ゲーム残り時間98分23秒 残る逃走者24人

MISSION? 5 (後書き)

次回、牢獄DEトーク。

牢獄DEトーク（前書き）

前回書いた通り、今回は牢獄DEトークです。

牢獄の者たちは何を語るのか…。

そして今回、黄色いあいつが出ます。

牢獄D.E.T.O.R.K

牢獄D.E.T.O.R.K

今回の牢獄は城下町の神秘の噴水近くに設置されている。

ピココ...ピコリ...

ウイックチ「あつ、メールが来ましたわ。」

ルイージ「なんて？」

ウイックチ「全員が疑いを晴らしたようですね。」

アリス「皆晴らせたのね。」

リデル「よかったです。」

?「...。」

牢獄で会話していると先ほど捕まつたティアナがやってきた。

ティアナ「は〜...せつかくクリアしたのに〜。」

?「...。」

「ドワーフ」「まあまあ、その話はこの中で...。」

ガチャン

ティアナ「んで、聞きたいんだけど……。」

ドラゴ「何?」

?「…。」

ティアナ「この牢獄の前にいるほのかにカレーの臭いのする生き物つぽいの何?」

?「ぐ?」

ウイック「あ、それは…。」

ルルー「カーバンクルよ。」

カーバンクル「ぐつぐぐ~!」

ティアナ「か、かーばんくる?」

マリオ「ほら、アルルつていただる?なんかいつもはあいつと一緒にいる奴なんだってさ。」

ティアナ「あ~…あの子と一緒にいる…って知らないわよ。」

黒子「今日はこの牢獄前にいるらしいですわ。」

リデル「えへへ。カーバンクルさん、アルルさんには逃げ切ってほ

しいですか？」

カーバンクル「ぐぐーー！」

ウイツチ「じゃあサタンは?」

カーバンクル「ぐう」。

ルルー シュソはどなた?

カーノング川

二二二

ルルルーさあ、アルルだけにしか分かんなしわ。

「アガー、そりゃあもんなの?」

ナ・ノ・ン・ケ・川

ルル「あ、牢獄の中に入つて来たわ。」

リデル「カリバンクルさんも皆と一緒にお話ししたいんですか？」

カーバンクル「ぐぐ！」

リデル「じゃあお話ししましょうか。」

カーバンクル「ぐぐ！」

シグナム「100分切ったのか…。」

現在ゲーム時間は残り100分を切っている。

シグナム「でも、まだまだこれからだな。気をつけなければ…。」

クルーケ「自首…自首…。」

自首を狙っているクルーケ。

自首をするにはエリアに設置された自首専用電話ボックスから自首を申告することで自首となる。

クルーケ「もうすぐ何だけどな…。」

だがその近くに…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

クルーケ「…電話…あつ、あつた！」

電話を見つけ、駆け付けるクルーケ。

クルーケ「自首！自首！」

ハンター「！」

クルーケ「え？！？ハンター！？」

ハンターが、クルーケが向かっていた曲がり角からいきなり出て来た。

クルーケ「うひゃひゃ～！」

ポン

クルーケ「何であんな所から出でてくるの～！？折角いけると思ったのに～～。」

クルーケ、電話ボックス目前でハンターに確保された…。

クルーケ 確保 残り 23人

フェーリ「『クルーケ確保…残り23人…』あのメガネね…。」

ショゾ「…いつ血首しあうだつたもんな…そのせいか?」

フェイト「今回前より長く残れてる…。」

前々回の記録を更新中のフェイト。

フェイト「今回…は…。」

レムレス「逃走中つて怖いね~」いつハンター来るか分かんないし…。

「

現在町広場を移動中のレムレス。

スタッフ「所で…何を食べているんですか?」

レムレス「あ、これ?これはキャンディーだよ。」

スタッフ「キャンディーですか…。」

レムレス「ほんとはビスケットとか食べたかったんだけどのびが渴くからね～…あ、食べる?」

スタッフ「い、いえ…仕事中なんで…。」

レムレス「そうなんだ。残念…。」

スバル「ハンター…来てないかな…。」

ハンターに怯えるスバル。

スバル「こんなに怖いものなんですか…逃走中って…。」

ハンターは神出鬼没。いつ、どこから来るかわからない。

十六夜「海賊…何かありそうですね…。」

花園の丘と城下町をつなぐ橋でたたずむ十六夜。その近くに…。

シェゾ「いつ来ても…逃げれる…。」

シェゾ・ウイグイイだ…。

シェゾ「……不味い！」

ハンターを見つけ、階段を上がるシェゾ。

十六夜「どこに行きましょうか……。」

シェゾ「おいつ、ハンター来てるぞー！」

十六夜「ハンター……！」

十六夜も、巻き込まれた……。ハンターが視界にとらえたのは……。

十六夜「こっちですか……。」

十六夜だ……。

シェゾ「やべえ……あいつの方に行つた……。」

十六夜「先ほど振り切りましたから……。」

わつきハンターを一回まじでいる十六夜。今回も逃げ切れるか！？

十六夜「曲がり道で……。」

ハンター「……？」

なんと、またハンターを撒いてしまった。

十六夜「また、撒けましたね。」

恐るべき、身体能力。

ラフィーナ「そつとくれば海賊の」とまざつたのかじりへ。」

その頃……海賊は……。

船長（演・涼宮ハルヒ）「ああ、もうすぐよー。」

着実に王國へ向かっていた。

そして、王の城では……。

国王（演・新川）「むう……どうすれば……。」

大臣（演・KAITO）「王様、此処は私が……王様は跳ね橋を渡つた先にある面殿に避難してください!」

国王（演・新川）「あ、ああ、わかったーー!」

急いで部屋を出ていく王室。

大臣（演・KAITO）「……。（ニヤッ）」

不敵な笑みを浮かべる大臣。

そして、宝石の館の前に、謎の人物が現れた！

その宝石の館の中には…。

ハンター「…。」

100体の、ハンター…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「なるほどね…じゃあ行かせてもうおつか
しら！」

王国と、逃走者に、最大の危機が迫る…

ピリリ！ピリリ！

アイク「メール…ミッション…。」

インデックス「えつ！？」

レミコア「ちょっと…嘘でしょ…！？」

アルル「ほんと…？」

そのミッションの内容とは…？

現在残り時間90分12秒 残る逃走者23人

牢獄DEトーク（後書き）

逃走者・確保者・自首者

逃走者 23人

高町なのは フェイト・T・ハラオウン ハ神はやて シグナム
ヴィータ スバル・ナカジマ スネーク アイク 霧雨魔理沙 十
六夜咲夜 レミリア・スカーレット フランドール・スカーレット
上条当麻 インデックス 御坂美琴 アルル・ナジャ アミティ
ラフィーナ シグ シエゾ・ウイグワイ フェーリ レムレス
サタン

確保者 12人

マリオ ルイージ ルルー ドラコケンタウルス ウィッチ アリ
ス・マーガトロイド リデル 博麗靈夢 白井黒子 シャマル テ
イアナ・ランスター クルーケ

自首者 0人

海賊が接近！MISSZONE～1（前書き）

他の作者さんの小説を見てみたら挿絵を使っていたんですが……。

やりたくてもできないのが僕。

登録とか全く分かんない。

あー… できたらしいなー…。

アイク「作者がなんか愚痴ってる。」

靈夢「この作者、いつもこの苦手だもんね。」

おこ、余計なこと書つな…。

海賊が接近！MISSION?1

逃走者たちに降りかかったミッション。

果たして、その内容とは…？

アイク「メール…ミシショーン…。」

インテックス「えつ…？」

レニア「ちよつと…嘘でしょ…！？」

アルル「ほんと…？」

ヴィータ「現在この王国に海賊が向かってきてる。』

フラン「『海賊は』の王国に上陸した後、住民から金品を奪いながら城下町にある宝石の館へと向かう。』

スバル「『海賊が向かう』宝石の館には…。』

はやて「『100体のハンターが仕掛けられている。』100体！？」

？」

シグ「うへ～100体～。」

フーリ「『海賊が宝石の館にたどり着き、扉を開ければ100体

のハンターがエリアに放出される。『そんなんことになつたら逃げ切れるわけ無いじゃない！！』

シェゾ「『逃れるには王の城の近くにある跳ね橋を渡り、新エリアへ移動するしかない。』」

レムレス「『ただし、跳ね橋は残り7分にならないと渡れず、1分間しか跳ね橋は渡れない。』『1分間つてことは……。』」

アミティ「え～！？1分間だけ～！？」

当麻「100体つて……無理だろ……。」

サタン「跳ね橋……くそつ……絶対に移動しないといけないのか……。」

ミッション3 新エリアへ移動せよ！

現在この王国に海賊が向かっている。

海賊は、上陸すると住民から金品を奪い、城下町にある宝石の館へと向かっている。

その宝石の館の中には100体のハンターが仕掛けられており、海賊が扉を開けるとともに、100体のハンターがエリアに放出される。

逃れるには王の城の近くにある跳ね橋を渡り、新エリアへ移動するしかない。

ただし、跳ね橋は残り7分にならないと渡れず、跳ね橋は1分間しか渡れない。

ちなみに跳ね橋を渡れなかつた逃走者がいた場合、タイマーが停止

し、取り残された逃走者全員が確保、自首で旧エリアからいなくな
るまでゲームを続行する。

美琴「すぐに向かっても渡れないってことね。」

シグナム「よし…すぐに行こ!」ついで…

アイク「不味い不味い不味い!…!…!…!…!…!…!…!…!…!

なのは「早く行かなきゃ…。」

十六夜「こんなことになるなんて…。」

エリアには4体のハンター。彼らの搜索を交わしながら跳ね橋に向
かわなければならぬ。

魔理沙「不味いんだぜ…。」

サタン「くそつ…。」

アルル「あと…18分もあるけど…早く行かなきゃー。」

シグ「あれ？ 跳ね橋つてこい？」

偶然、跳ね橋近くにいたシグ。

シグ「残り7分にならないと渡れないのか。じゃあ待つぞ。」

跳ね橋の近くで待機する。

インデックス「早く行か……！」

ハンターを見つけ、急いで隠れるインデックス。

インデックス「こんな時に限つて……。」

ハンター？ 「……。

だが背後からもハンター……。

インデックス「早く行つて……。」

ハンター？ 「……。

見つかった……。

インデックス「……うわあー後ろからも来てたーー！」

ハンター「！」

さらに別のハンターにも見つかった！

インデックス「嘘おおおおお……！」

ポン
インデックス 確保 残り 22人

インデックス「うぐつ…とうま～…。」

レミリア「『花園の丘にてインデックス確保。残り22人。』捕ま
つてきてるね…。」

当麻「インデックス捕まつた…。」

フェーリ「…レムレス先輩…。」

フェーリ、レムレスと合流…。

レムレス「フェーリ！」

フェーリ「先輩…このまま跳ね橋へ行きましょう…。」

レムレス「うん… そうだね…。」

はやて「早く向かわんとな〜。」

現在水路沿いの道を移動中のハ神。

はやて「100体やろ? そんなん出たら逃げ切れへんて。」

サタン「アルルは…。」

アルルを探すサタン…。

サタン「…ん? あれは…?」

サタンが見つけたのは…。

シグナム「此処からだと…この城の後ろだな…。」

シグナムだ…。

サタン「おいつ、 跳ね橋か? この王の城の後ろにある。」

シグナム「跳ね橋か? この王の城の後ろにある。」

サタン「そ、うか…済まないな…。」

シグナム「あ、ああ。捕まるなよ。」

アイク「ハンター来てねえかな…？」

並木道を移動中のアイク。

アイク「…！ハンター発見…。」

しかし、移動中にハンターを発見…。

アイク「…。」

ハンター「…。」

アイク「…。」

ハンター「…。」

気付かれなかつたようだ。

アイク「はあ…はあ…見つからなかつたな…。」

アルル「え、と…此処から…って…。」

アルルが何かを見つけた。見つけたのは……。

アルル「電話ボックスじゃん~！」

見つけたのは自主用電話ボックス。今、自首を申告すればその時点の賞金を獲得できる。

アルル「ダメだダメだ！自首は考えちゃいけない！」

しかし、自首はせず通り過ぎて行つた……。

スネーク「此処か……。」

スネークも跳ね橋に到着……。

シグ「ああ、スエーク。スネーク。」

スネーク「名前を一瞬間違えられたな……まあいい。今何分だ？」

シグ「え~と……84分。」

スネーク「と、言つことはあと1~3分待たなきや開かないのか……。」

シグ「僕は此処で待つてる。」

スネーク「俺は近くの建物の死角に隠れている。」

シグ「そうか。じゃあ虫でも探しとこ〜。」

スネーク「…。（汗）随分呑気だな…。」

ヴィータ「…跳ね橋はこの近くか…だが今行つても渡れない。ギリギリまで此処で隠れておくか…。」

レムレス「跳ね橋はすぐには渡れない。橋がつないだ瞬間ダッシュで渡りう。」

フューリ「はい！先輩！」

スバル「早く行かなきや…。」

エリアを移動するスバル。

スバル「はあ…はあ…っ…！」

しかし、ハンターを見つけ、急いで隠れる。

スバル「こんな時に…。」

ハンターに止められて、自由に動けない。

シェゾ「ハンターに見つからずに着いたな。」

アミティ「なんとか着いたよ！」

シェゾ、アミティも跳ね橋に到着…。

シェゾ「待ってる間に見つかつたら終わりだ…。」

アミティ「気をつけないと…。」

果たして全員跳ね橋を渡り、新エリアへと移動できるのか…？

現在残り時間 82分31秒 残る逃走者22人

海賊が接近！MISSION?・1（後書き）

アイク「でも今から挿絵使つたら微妙じゃないか？」

そうだね！次回あつたら使おう。

アイク「あんの！？」

信じるか信じないかはあなた次第……。

アイク「何のギャグ！？そしてウザイ！」

フラン「よし、此処はあたしの「きゅうとじてドカーン」をじょ。

」

それはやめてえええええ――――――！

MISSZONE? 2 (前書き)

「アイク」作者が挿絵を使つたりひつなると黙つて。

フラン「ぐじゅぐじゅになる。」

クルーク「汚くなる。」

フェーリ「読む人がいなくなる。」

酷すぎるだろお前ら!...!

MISSION? 2

逃走者たちにミッション3が発動された。

宝石の館の扉を海賊が開けると100体のハンターが放出される。逃れるには残り7分から1分間のみ渡れる跳ね橋を渡り、新エリアに移動しなければならない。

現在跳ね橋近くで待機しているのはシグ、スネーク、シェゾ・ウイグイイ、アミティの4人。

果たして、全員無事に新エリアへ移動できるか！？

当麻「うわ～…遠いな～…。」

跳ね橋まで、距離がある上条。

当麻「でも此処でくよくしているわけにはいかねえんだよー。」

サタン「よし、跳ね橋近くに着いたぞ。」

跳ね橋近くまでやつてきたサタン。

サタン「まだか…よし、どこかでハンターに見つからないようひこ
とくか。」

近くの物陰に隠れる闇の貴公子…。

シグナム「ハンター…いなーな…。」

ハンターがいないことを確認するシグナム。

シグナム「よしつ…向かうぞ!」

レムレス「フューリ…もうすぐだよ…。」

フューリ「はい…先輩…。」

二人いつしょに行動するレムレスとフューリ。

レムレス「…！隠れて…ハンターだ…。」

フューリ「えつ…？」

レムレスがハンターを見つけ、近くの茂みに隠れる。

レムレス「ハンターが通り過ぎるまで待とう…。」

フェーリ「は、はい先輩…。（先輩が、こんなに近い…。）」

ハンター「…。」

無事、見つからなかつたようだ。

レムレス「通り過ぎて行つたね…行こう！」

フェーリ「跳ね橋へ…。」

跳ね橋へ向かう！

レミリア「着いたわ…。」

はやて「間に合つたわ…。」

シグナム「主…無事でしたか！」

美琴「到着…。」

レミリア・スカーレット、八神はやて、シグナム、御坂美琴が跳ね橋付近に到着。

美琴「へえ…跳ね橋付近つて見晴らしが良い場所ね…。」

シグナム「これのおかげだな…。」

フラン「ハンター来ないでよねーーー。」

現在背をかがめて移動中のフラン。

フラン「あーーー不味いなーーー。」

彼女の近くにハンターーーー。

フラン「……いたいた……。」

フランもハンターを見つけたーーー。

フラン「通り過ぎてつてよねーーー。」

ハンター「……。」

フラン「……来るな……。」

……ガサツ。

ハンター「……。」

見つかったーーー。

フラン「うわあーーー。」

急いで逃げるフラン。しかし、かなりの至近距離ーーー。

フラン「いやああああああああ……」

ポン

フランドール・スカーレット 確保 残り 21人

フラン「あいつに負けた……長く生き残りたかったのに……」

ピリリ……ピリリ……。

レムレス「『フランドール・スカーレット』確保。残り21人。』

レミリア「確保されちゃったわね……。」

ヴィータ「そろそろ移動するかあ……。」

移動を開始したヴィータ。

ヴィータ「何で移動しなきゃいけないミッショングーつも来るんだよ……。」

しぶしぶと移動する……。

アルル「まだ遠いな……。」

まだ跳ね橋まで距離があるアルル。

アルル「急がないとカーくんになんて言われるか……。」

現在たどり着けていないのは……。

なのは「うへん……。」

アイク「遠い……。」

当麻「距離がある……。」

高町なのは、フェイト・T・ハラオウン、ヴィータ、スバル・ナカジマ、霧雨魔理沙、十六夜咲夜、アイク、上条当麻、アルル・ナジヤ、ラフィーナ、フェーリ、レムレスの12人。

果たして間に合つのか！？

アイク「…おっ、フェイト。」

フェイト「あ、アイク君。」

アイク、フェイトと合流。

アイク「ハンター見かけたか？」

フェイト「いや、今ん所は……。」

ハンター「……」

だが、二人の近くにハンター……。

フェイト「跳ね橋までは距離があるよね……。」

アイク「そうだな……ハンター来たぞ！」

フェイト「えつ！？」

ハンターに見つかった二人。

逃げ切れるのか！？

MISSION? 2 (後書き)

今回短かつたですね。

フェイト、アイク、逃げ切れるのか!?

MISSION? 3 (前書き)

前回

ハンターに見つかってしまったフェイトとアイク。

彼らは無事、逃げ切れるのか！？

いろんな作者さんから感想が来ていてとても嬉しいです。

これからもがんばっていきます！

MISSION? 3

フェイト「跳ね橋までは距離があるよね……。」

アイク「そうだな……ハンター來たぞ!」

フェイト「えつ!?」

ハンターに見つかってしまった二人!

ハンターが視界にとらえたのは……。

アイク「こっちかよ……!」

アイクだ……。

アイク「できれば最後まで残したかったんだけどな……ほらよー。」

ポン!

ハンター「!?」

アイクは手に入れていた捕獲網を使い、ハンターの動きを止めた。

アイク「今のひびき。」

ハンターが動けない隙に遠くへ逃げるアイク。

フエイト「はあ……はあ……ちよつと跳ね橋にほ……近づいたかな。」

十六夜「跳ね橋に到着しました。」

跳ね橋に着いた十六夜。

十六夜「あと来ていませんのは……。」

ヴィータ「着きましたと……。」

ヴィータも跳ね橋に到着。

ヴィータ「このまま下がり切るまで待機しておきますか……。」

そして……城下町に……。

船長（演・涼宮ハルヒ）「さあ、着いたわよ……。」

海賊が、到着！

住民1 「キヤーーーー！」

住民2 「うわああーーーー！」

住民3 「は、跳ね橋に逃げるーーーー！」

逃げ惑う住民たち…逃走者が向かう跳ね橋へ向かう…。

そして、海賊は…。

船員1（演・涼宮ハルヒ）「船長ー・宝石の館はこの先ですー！」

船長（演・涼宮ハルヒ）「ええ…分かつてるわ…。」

100体のハンターが仕掛けられている宝石の館へ向かう…。

黒子「住民が逃げ惑っていますわよ…。」

リデル「あっ、海賊が来ましたー！」

シャマル「あれが船長じゃないんですか…？」

ルイージ「あれ？でもどつかで…。」

靈夢「第1回田の逃走中に出ていた涼宮ハルヒじゃない？」

マリオ「本当だーでも何で…。」

クルーケ「つてか僕たちも危なくないか?」

ウイッヂ「そうですわよー海賊が来たら…。」

フラン「その時は「きゅっとしてドカーン」を…。」

ドリード「じめん。それだけはやめて。」

なのは「うわっー跳ね橋下がるまであと少しじゃんー急がないとー。」

アルル「ボクも急いでいかないと…つて海賊じゃんー。」

海賊を見つけたアルル。

アルル「もうすぐなんだー100体ハンター…不味いーー!」

フェイト「跳ね橋に着いたー。」

アイク「無事…着いた…。」

フェイト、アイクも跳ね橋に到着した。

フェイト「あつ、アイク君！大丈夫だった！？」

アイク「ああ、最初の通達の宝箱に入っていた捕獲網を持っていたからそれを使って逃げて来た。」

フェイト「そなんだ…なのははまだなんだね…。」

なのは「…！不味い…。」

ハンターを見つけた高町。

なのは「急いでるって言つのに…。」

ハンターに足止めを食らひ、中々自由に動けない！

レムレス「着いたよ、フェーリ。」

レムレス、フェーリの二人が到着。

レムレス「見えない場所に隠れておこう。」

フェーリ「はい…。」

アミティ「ねえねえ…下がるまであと何分？」

シグナム「えっと…今が75分だから…あと4分だな。」

アミティ「まだ時間あるね…。」

そして…。

国王（演・新川）「早く跳ね橋へ…。」

兵士1（演・リンク）「王様、こちらです。」

王も、城から逃げ出した。

なのは「此処から向こうへ行つたら…。」

スバル「あっ、なのはさん！」

魔理沙「まだ着いていなかつたのか？」

高町なのは、スバル・ナカジマ、霧雨魔理沙の3人が合流。

なのは「うん…此処から先へ行つたらいいんだけど…。」

スバル「…あつ…隠れて下さい…ハンターがいます…」

なのは「あつ…。」

ハンターを見つけ、隠れる3人。

なのは「あのハンター通り過ぎて行つたら行こい…。」

魔理沙「…！」

ダッ

なのは「あつ、ハンターいるよー。」

魔理沙「ハンターの後ろを通り過ぎていけば大丈夫だぜ！」

魔理沙はハンターが通り過ぎて行つた所を突いて走っていく。

ハンター？「！」

しかし、別のハンターに見つかった！

魔理沙「はあ…はあ…。」

スバル「…あつ！ハンターが…。」

なのは「魔理沙ちゃんの方に走つて行つた…。」

魔理沙「はあ…。」

しかし、霧雨は後ろから来るハンターに気付いていない！

魔理沙「はあ…はあ…。」

タツタツタツ…。

魔理沙「…へ？ つてうわあ――――！」

ポン

霧雨魔理沙 確保 残り 20人

魔理沙「マジかよ…ちっくしょー…！」

なのは「今行く？」

スバル「行きましょー！」

なのは、スバルは跳ね橋へ向かう！

シグ「おお…住民が集まつて来た…。」

アミティ「もうすぐだよね！」

跳ね橋で待機する15人。

はやて「まだ下りへんのかいな…。」

住民にまぎれて跳ね橋を待つ八神。

スネーク「橋が下がった瞬間、一気に走っていく。」

サタン「此処からならハンターが来ても大丈夫だな。」

近くの建物の死角に隠れるスネークとサタン。

シェゾ「…まだか…。」

跳ね橋を渡るタイミングをうかがうシェゾ。

そして、まだたどり着けていないのは…。

当麻「早く早く…。」

高町なのは、スバル・ナカジマ、上条当麻、アルル・ナジャ、ラフィーナの5人！

彼らは無事、跳ね橋にたどり着けるのか！？

ゲーム残り時間 73分21秒

残る逃走者 20人

MISSION? 3 (後書き)

今回アイクが使用した捕獲網。

アイク以外にアイテムを持っている逃走者たち。

レムレス 無敵サングラス

シグナム 双眼鏡

高町なのは 秘密の地図

なのはが持っている「秘密の地図」。

なのは、「本当にこれ、どうで使うの?」

それは言えません。

MISSISSIPPI 4 (ミシシッピ)

今回の//シ ハリ ハセ王國編の例の//シ ハリ ハセです。

と、//ハリとは例のあれも…?

それは樂しみで、してこいへばだれ。

MISSION? 4

現在跳ね橋にたどり着けていないのは5人。

彼らは、無事、ミッションをクリアすることができるのか…?

当麻「早く行かねえと…ハンターが…。」

跳ね橋へ急ぐ上条。

当麻「絶対に今回は賞金取りたいんだーーー！」

レムレス「お…あれは…。」

レムレスが見つけたのは…。

兵士1（演・リンク）「王様、あともうすぐですーーー。」

王様だ…。

はやて「あつ…王様も来たんや。」

フューリー「…あの隣にいた人は…？」

その頃……宝石の館の前では……。

?「くくく……もうすぐだ……もうすぐ私の計画が……成功する……くくく
……。」

謎の人物がいた……。

跳ね橋が渡れるよつになるまであと……一分半！

当麻「水路沿いの道から行こうつー。」

水路沿いの道に向かつた上条。

なのは「着いた！」

スバル「あとは待つだけですね。」

高町なのは、スバル・ナカジマが到着。

跳ね橋が、下がりきるまであと……一分！

ラフィーナ「あれが宝石の館…？不味いわ…ハンターが放出された
ら…。」

アルル「間に合わないよ…。」

当麻「うわ…時間がねえ…。」

そして…。

船長（演・涼宮ハルヒ）「着いたわ…開けるわよ…。」

船員（演・キヨン）「はい…。」

船長（演・涼宮ハルヒ）「せーの…。」

ガチャ！

ダダダダダダダダダ…。

100体のハンターが…放出された…。

ラフィーナ「…！ハンターが…。」

アルル「ハンター出て来たよ～！」

まだ跳ね橋まで付いていない一人。間に合うのか！？

そして……。

5
。.

4
。.

3
。.

2
。.

1
。.

跳ね橋が、渡れるようになつた……。

はやで「今やー」

八神はやで MUSHON CLEAR

はやで「よつしゃーーー！」

レムレス「行くよ！」

フェーリ「はい！」

アイク「よしつ…。」

フェイト「行けた行けた！」

シグナム「渡れたぞ……！」

卷之三

CLEAR

十六夜「頑張りましょっ……お嬢様……。」

スルカジ「ええ…。」

スネーク「クリア…」。

シェゾー
よし!」

美琴「クリアね……あいつ……まだクリアしていないのかしら……？」

アリヤー・ヒタム

ヴィータ「移動めんどくせえけど…ハンターには捕まりたくないな

•

サタン「クリアだ！」

なのは「行けた！」

スバル「早く……！」

十六夜咲夜 レミリア・スカーレット スネーク シエゾ・ウイグ
イイ 御坂美琴 アミティ ヴィータ サタン 高町なのは スバ
ル・ナカジマ MISSION CLEAR

シグ「……おつ、渡れるようになってる……。」

レムレス「ひとまずは……。」

フェーリ「先輩……。」

シグ レムレス フェーリ MISSION CLEAR

シグ「ミッションクリアだ。」

現在クリアしていないのは……3人……。

アルル「不味いよ……！」

ラフイーナ「此処からどうやって……。」

当麻「跳ね橋が～！」

エリア、分断まで……。

10
…。

9
…。

8
…。

3
..
.

4
..
.

5
..
.

6
..
.

7
..
.

2。

? 「あ、間に合つた。」

1。

ギリギリコドリッシュショーンをクリアしたのは……。

当麻「俺もクリアできたぞ～！～！」

上條当麻だ。

そして……。

ガガガ
。：

エリアが分断された。。

当麻「^?」

上条が乗つてゐる跳ね橋は新エリア方面に向かつて上がつてゐる。

卷之三

「おまあとで落せる」

デシャアアアン！――！――！――！

美琴「ちよ、あんた…何してんの？」

「麻一世上かくケリアしたのに」

上条当麻、旧エリアには取り残されなかつたが跳ね橋には取り残された。

これで…旧エリアは104体のハンターによって埋め尽くされた。

「ラフイヤーナ、『ビーやつ』の中を逃げればいいのよー!」

104体のハンターがいるエリアの中では...。

ハンター - ! ! !

ニハナニガニ わお！

すぐにハンターに見つかってしまう！

ポン
ラフィーナ 確保 残り 19人

ラフィーナ「ほんの無理よ～。」

104体のハンターの標的は…。

アルル「不味いよ」。

アルル・ナジヤ…。

アルル「下手に動けないよ…。」

ただ一人!!!

アルル「此処に隠れておこうかな…。」

ハンター「…。」

ハンター？「…。」

ハンター？「…。」

ハンター？「…。」

ハンター？「…。」

アルルに忍び寄る黒い、波…。

アルル「うへん…つてつわああ…！」

ハンター「…。」

見つかった…。

アルル「怖い怖い怖い…！つて前からもこんなにたくさん来た～
…つわあああ…！」

ポン
アルル・ナジヤ 確保 残り 18人

アルル「ううう…。どーして…？」

アルル・ナジヤ、大量のハンター前にばたんきゅ〜。

そして…宝石の館では…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「宝石がたくさんあるわね…。」

バン！バン！

船員たち「ーー??

船長（演：涼宮ハルヒ）「来たわね…。」

船長の前には、謎の人物…。

その、謎の人物がフードを脱いだ。

その謎の人物の正体は…。

大臣（演：KAITO）「ふふふ…。」

なんと、大臣だつた……。

大臣（演・KAHITO）「これでこの私が…この国の…王だ…」

フハハハハ！ ！ ！ ！ ！ ！ ！ ！ ！ ！

次回、牢獄の逃走者たちにチャンスが…？

ゲーム残り時間70分00秒 残る逃走者18人

MISSION? 4 (後書き)

はい、次回、ちょっととゲームを中断してあれをします。

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦1（前書き）

今回ゲームを一時中断します！

そして、あれを行います！

さあ、その結果は！？

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦1

牢獄

クルーケ「残ってる人たちはクリアしたのか……。」

マリオ「はあ～…俺情けないな～…一番最初に捕まつて…。」

アリス「もう一回ゲームに参加できないかしら…。」

黒子「お姉さまに会いたいですわ…。」

ルルー「私はサタンさまに…。」

インデックス「この二人は趣旨が違うんだけど。」

その辺り…宝石の館では…。

大臣（演・KAITO）「では…いらっしゃい…。」

船長（演・涼宮ハルヒ）「ええ…それにしても…この黒いのは何なのかな？」

大臣（演・KAITO）「邪魔ですね…。少し、片づけてくれませんか？」

船長（演・涼宮ハルヒ）「そうね…。みんな、ここにつ等を少しつづ

けてくれないかしら?」

船員たち「はー。」

そして、104体のハンターのうちの44体が倒され、その数は60体となつた。

船長（演・涼宮ハルヒ）「少し、片付いたようね。」

大臣（演・KAITO）「これくらいでいいでしょう。では、こちらに…。」

ピココ…ピコリ…。

靈夢「…あ、メールが来たわ。」

ウイック「なんて書いてありますの?」

靈夢「えっと…通達?」。

リデル「通達…?」

クルーケ「内容は何なのさ?」

靈夢「今から読むから落ち着きなわ…えっと…『これよつ、ゲームを一時中断し…。』」

ルルー「ゲームを中断?」

ドリ「一体何をやるの?」

靈夢「『これより敗者復活戦を行ひ!』」

マリオ「えー? 敗者復活! ?」

ルイージ「やつたーーー!」

フラン「内容はー?」

靈夢「えっとね…『王の城の近くの港に停泊している船に10分以内に乗り込めば、ゲームに復活できる。』」

アリス「王の城の近くの港?」

靈夢「まだ続きが…『海賊たちがハンターの数を減らしたため、敗者復活戦は60体のハンターで行われる。』」

ルイージ「やつたー!」

マリオ「お前、今の所、やつたーしか言つてい niedzi.」

ルイージ「そうなの! ?」

通達2 敗者復活戦!!

牢獄にいる逃走者たちに敗者復活のチャンスが与えられた。

王の城の近くの港に停泊している船に乗り込めば、ゲームに復活できる。

ハンターの数は、海賊が一部を倒したため、60体で行われる。

敗者復活戦 対象者

シャマル ティアナ・ランスター マリオ ルイージ 博麗靈夢
霧雨魔理沙 フランドル・スカーレット アリス・マーガトロイ
ド インデックス 白井黒子 アルル・ナジャ ラフィーナ ルル
ー ウィッチ ドラコケンタウルス リデル クルーク 以上17名

靈夢「王の城の近くの港に泊まっている船に乗り込めば復活できるわよー！」

魔理沙「そうかー！」

シャマル「復活していい所見せたいーーー！」

そして…。

敗者復活戦開始まで…。

4
。.

3
。.

2
。.

1
。.

プシュー！

敗者復活戦が、開始した。

魔理沙「やつたぞー！..」

インデックス「また行けるんだー！」

ルイージ「自由だーーーーー！」

ハンター「！」

しかし、近くにいたハンターに見つかった。

インデックス「うわあ～！」

黒子「ハンターが来ましたわ！！」

ルルー「さつそく～!?」

ハンターが視界にとらえたのは…。

ルイージ「僕～！？」

ルイージだ…。

ルイージ「しょっぱなからこれ～！？」

ポン

ルイージ「そんなのないよ～！僕大声で自由だ～って言ったのに
～！」

ルイージ「脱落…。」

ルイージ 失格

しかし、Hリーアにはハンターが60体もいる。そう簡単に復活できるわけもなく……。

アリス「いや～！～！」

ポン

アリス「無理よここののーー！」

ティアナ「くつ…ハンター1体来たわ…。」

ハンター？「ーーー」

ティアナ「つて前からもーー！？」

ポン

ティアナ「ああ、もう…。」

ラフィーナ「不味い不味い……って来たわ！」

ハンター「！」

ハンター？」「！」

ラフィー！ さて2体も有りなの？

ポン

ラフイヤーナ「ああ、おきるわよーーー!!」って復活じゅうて言つのーーー。」

3人が確保されてしまつた。

アリス・マーガトロイド ティアナ・ランスター ラフィーナ 失格

シャマル「はあ……はあ……つて来ました！」

シャルがハンターに見つかった！

シャマル「いやあー！」

ポン

シャマル「復活できるのー！？」

シャマル 失格

靈夢「不味いわ…ハンターがうろちょろしていてとても危ない状況だわ…。」

ハンターを見つけ、急いで隠れる靈夢。

靈夢「見つかった瞬間終わりね…。」

クルーケ「レムレスにいい所をひとつは見せないと…。」

エリア移動中のクルーケ。

しかし…。

ハンター「！」

ハンター？「！」

ハンター？「！」

3体のハンターに見つかった！

クルーケ「うわあ来たあー！！」

しかし、3体のハンターに追われている……。

ケル一ケ
しきやう!

ポン

クルーク「何で3体のハンターが来るんだ！」？」

復活するのは、そう簡単なことではない…。

クルーケ 失格

現在船を目指し、向かっているのはマリオ、博麗靈夢、霧雨魔理沙、

フランドール・スカーレット、インディクス、白井黒子、アルル・ナジヤ、ルルー、ウイッチ、ドラコケンタウルス、リデルの11人。

果たして彼らは無事、復活できるのか！？

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦1（後書き）

残っている11人は見事復活できるのか！？

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦2（前書き）

アイク「…あれ？作者はどこに行つた？」

美琴「そここのゲーセンで何かしてるんじゃない？」

アイク「じゃあ出でてくまで待つておこう。」

…。

ふーっ！クリアできた。

アイク「おい馬鹿作者！何していたんだ！」

うわっ！アイク！何つてゲーセンでタイタツを…。

アイク「んな」とより勉強しちゃあああ…。

『やあああああああ…。

美琴「…ちょっと、こんな馬鹿な」としていないでたまにやるタイトル「ホールやるわよ…。」

アイク「そ、そうだな…では…。」

美琴・アイク「逃走中、どうぞ…。」

酷い……。

フヒーリ「当たり前よ……。」

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦2

敗者復活戦が始まった。

復活するには10分以内に王の城の近くの港に停泊している船に乗り込めば復活できる。

しかし、ヒリアには60体のハンター。

現在残っているのはマリオ、博麗靈夢、霧雨魔理沙、フランドール・スカーレット、インデックス、白井黒子、アルル・ナジャ、ルルー、ウイッヂ、ドラゴケンタウルス、リデルの11人。

果たして彼らは無事復活することができるのか！？

現在復活ゲーム終了まで6分30秒…。

インデックス「不味いよ…ハンターがうるちよろしてゐるよ…。」

ハンターを見つけ、動けないインデックス。

インデックス「でも復活はしたいな…。」

リデル「不味いです、ハンターに見つかりました！」

ハンターに見つかったリデル！

リデル「さやああー！」

ポン

リデル「うう…残念です…。」

リデル 失格

ウイッチ「もうちょっとで着きますわ…。」

船まで100メートルに迫るウイッチ。

ウイッチ「此処まで来たなら復活したいわ…。」

しかし、背後からハンター…。

ウイッチ「…！不味いですわ…ハンターが迫ってきますわ…。」

ハンターを見つけ、急ぐウイッチ。

ハンター「…。」

そして、追いかけるハンター……。

果たして、その決着は……！？

ウイッヂ「やりましたわ！－！」

ウイッヂだ……。

ウイッヂ 復活

ウイッヂ「おーほっほ……復活ぐらい簡単でしょ……！」

フラン「あ、ハンター……。」

ハンターを見つけ、背を低くするフラン。

アルル「あ…ハンターいた…。」

アルルもハンターを見つけた…。

ハンター「！」

フラン「来た！」

アルル「不味い！」

二人とも、ハンターに見つかった！

? 「…！？」

だが、一人のうちのどちらかに巻き添えになつた逃走者がいた。そ
の逃走者とは…。

靈夢「何してんよ…！」

博麗だ…。巻き添えにしたのは…。

アルル「ごめん…！」

アルルだ…。

靈夢「ちょっと…置いていかないでよ…」

アルルが博麗を追い抜き、ハンターの標的が博麗に変わった。

靈夢「ちょっと…嘘でしょ…！」

ポン

靈夢「何でよ…？あとちょっとだけたの…」

博麗靈夢 失格

フラン「不味いよ～ハンターたくさん来てるよ～…」

ハンターから逃げるフラン。

フラン「嫌だ～！！」

ポン

フラン「復活できるかと思ったのに……何で？」

フランードール・スカーレット 失格

マリオ「よつしゃー！船が見えて来た！」

その頃、マリオがあと60メートルと言つ所まで来ていた。

「…」ウイッヂ「…」ウイッヂですわー」「ウイッヂ」

マリオ「わかつてゐ！」

そして
。

マリオ「ふつかーつ！…！」

マリオ 復活

「ウイッチ、よくあの中から復活できましたわね。」

「まだ、お前も喜んでいいのか？」

復活ゲーム終了まであと3分！

「うわ！不味い！！」

ドラコがハンターに見つかった！

ドアノートで前からもたくさん来た～！いわせ～！～！」

ポン

፳፻፲፭ ዓ.ም.

ドラコケンタウルス 失格

アルル「こつちだね……。」

船まであと75メートルのアルル。

「早く行こう。」

ハンター「！」

アルル「え！？」

ポン

アルル「…え？」

ハンターと鉢合せになってしまった。

アルル・ナジヤ 失格

これで残っているのは…。

ルルー「サタン様…もうすぐですわ…。」

インテックス「たくさんいっぱい食べたいんだよ…。」

黒子「お姉さまの元に…。」

魔理沙「絶対に復活してやるんだぜ…。」

霧雨魔理沙、インデックス、白井黒子、ルルーの4人。

復活ゲーム終了まであと2分！

インデックス「…ハンター來た…。」

ハンターを見つけたインデックス。

インデックス「もうすぐだからね…。」

しかし、背後からハンター…。

ハンター「…！」

見つかった…インデックスは気付いていない。

インデックス「今なら大丈夫かな？」

ポン

インデックス「…へ？ちょっと待つて…終わり～！？」

インテックス 失格

ルルー「絶対に復活してやるわ…！」

しかし…。

ハンター「…！」

背後から、ハンター…。

ルルー「！不味いわ！このまま船に駆け込むわよ！」

船に向かうルルー。その距離、およそ80メートル！

ルルー「此処で捕まりたくない！」

決着は…。

ルルー「い、いや～！」

ポン

ルルー「何で！？もうすぐそこよ！！」

ハンターが一枚上手だった。ルルー、船目前で確保。

ルルー 失格

トンネルを進もうとする黒子。

黒子「この先に行けば……。」

トンネルをくぐりぬけた先に……。

ハンター「……。」

ハンター「……。」

黒子「！不味いわ……いつたん戻るわ……。」

制限時間まであと一分。間に合つのかー??

魔理沙「あとちょっとなんだぜー!」

船まで160メートルの所まで来た霧雨。

しかし、曲がった角の先に5体のハンター…。

魔理沙「…「わっとー!たくさんいた!!」

見つかった…。

魔理沙「嫌なんだぜ…あとまひとつとの所まで来たんだから…う、うわーーー!」

ポン

魔理沙「あとちょっとだったのに…悔しいぜ…。」

霧雨魔理沙 失格

これで残るは白井黒子、ただ一人!

黒子「お姉さまと一緒に逃走成功したいんですね……だからここで負けるわけには……。」

復活ゲーム終了まであと30秒。

黒子「…船ですわ…」

船に急ぐ白井。

マリオ「…」

ウイッチ「あと少しよー甲へ！」

黒子「はは…はあ…」

終了まであと20秒！

黒子「は…は…たどり着けましたわ…」

白井黒子 復活

ウイッチ「ギリギリでしたわよー」

マリオ「あと少しじゃんかー！」

黒子「本当ね……。」

復活したのは……ウイッチ、マリオ、白井黒子の3人！

これで、逃走者が21人に増えた！

マリオ「絶対に逃げ切ってやるぞー！」

次回、新エリアでの逃走劇が始まる！

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦2（後書き）

サタン「ん？今の所確保されていない逃走者たちが目立っていない気がするんだが…。」

シグナム「気のせいではないか？」

なのは「気のせいでしょう。」

ゲーム再開！（前書き）

恐怖のゲームが再開する…。

逃走者は21人。

逃げ切るものは…現れるのか！？

ゲーム再開！

此処は…新エリア…。

なのは「来たよー…。」

ゲーム再開前、エリア内に散らばる逃走者たち！

マリオ「復活したからには復活できなかつた人たちの分も頑張りたいと思つ。」

ウイッчи「ちょっと待つて下さー…前回のエリアより狭くなくて?」

シェゾ「此処は…静かな森だな…。」

レムレス「此処でまずは様子を見るか…。」

そして…。

今宵「…よし…。」

ゲームマスター、今宵によつて新エリアに4体のハンターが転送された…。

レミコア「ちょっと待つてー?もうすぐ始まるのー?」

ゲーム再開まで…。

7

8

9

1
0

4

5

6

250

恐怖のゲームが、再開した。

ダダダダ

ハンター「…！」

1

2

3

シグナム「始まつたな…。」

ゲーム時間は70分から再スタート。

1秒100円ずつ増えており、この70分間を逃げ切れば先ほどの時間と合わせて賞金96万円を獲得できる。

ヴィータ「此処は隠れ場所が多くていいな…。」

フェーリ「…森…。」

新エリアはエリア中心から見てエリア中心と南東部分が港町となっており、北西部が王の宮殿が建つ庭園で、北東部分は森が広がっており、その中心部分にはきれいな湖が広がっている。

広さは東京ドーム3・5個分と前エリアの半分ほど広さである。

この中を21人の逃走者が逃げる。

サタン「ふう…まさかアルルが捕まってしまうとはな…アルルの分も頑張らないとな…。」

スバル「自首する気は全然ないです…!…自首なんて絶対にしません…!…」

さうして、このゲームでは自首も可能。エリア内の2か所に設置された自主用電話ボックスから申告することで自首が成立、その時点で賞金を獲得できる。

ただし、エリア内には4体のハンター。彼らに捕まれば失格、賞金

は、〇…。

美琴「新エリア…狭いわね…。」

新エリアは前エリアの半分ほどの広さ。

美琴「エリアが狭くなつた分ハンターに会つ可能性も高くなつているわね…。」

その通りだ…。

なのは「…？」の地図…。」

なのはが見ているのは通達一で手に入れた秘密の地図。

なのは「あ、この地図…」のHariaの形と一緒にだ！」

秘密の地図に書かれていた地形は新エリアの地形と全く一緒にだつたのだ。

なのは「この印がある所…気になるな…行ってみよう!」

その印がある所には一体何があるのか！？

スネーク「この庭園……いい所だな……。」

庭園に潜むスネーク。

ハンター「……。」

その近くにハンター……。

スネーク「うーむ……！ハンターか……。」

ハンターを見つけたスネーク。

スネーク「……。」

ハンター「……。」

スネーク「……行つたようだな……。」

気付かれなかつたようだ。

スネーク「何とか危機は去つたな……。」

その頃……。

カキイン！カキイイイン！――！

剣士（演・古泉一樹）「はつーとお――」

宮殿の庭園で一人の剣士が練習をしていた。

カキイイイイイン！――！

剣士（演・古泉一樹）「あつ――」

すつ――。

剣士が、もう一人の剣士の剣を弾き飛ばすともう一人の剣士の顔に剣を突き付けた。

剣士（演・古泉一樹）「王子、さすがです――。」

王子（演・マルス）「君もだよ。」

剣士は剣を拾い上げる。

剣士（演・古泉一樹）「やはり、伝説の剣は王子にふさわしいですね――。」

王子（演・マルス）「ああ、この国に伝わる伝説の剣士が所有していた剣のことか、確かにこの国に攻めて来た海賊1000人をその剣士はたった一人で倒したと言う伝説だな……その後にその剣士はこの王国のどこかに剣を封印したと言うが……その封印場所は僕にも分らない。まあ、何事も起こらない平和な日常が一番さ。」

剣士（演・古泉一樹）「……はー。」

王子（演・マルス）「……あれは……。」

国王（演・新川）「へそつーへそつーー王国を乗っ取られてしまつた。一体どうしたらいいんじや……。」

王子（演・マルス）「王様！ 一体どうしたんですかー…？」

王子と剣士は国王の元に駆け寄る。

国王（演・新川）「ああ……それと大臣がその海賊と手を組んでいたらしく大臣が新しい国王となつたようなんだ……。」

王子（演・マルス）「あいつですか……。」

国王（演・新川）「王子よ、一体どうしたら……。」
兵士1（コング）「大変です王様ーー！」

国王（演・新川）「どうしたのじや？」

兵士2（演・クロノ・ハラオウン）「海賊たちがこちりに向かって侵入しようとしてきますーー！」

兵士2（演・クロノ・ハラオウン）「海賊たちがこちりに向かって侵入しようとしてきますーー！」

国玉（演・新川）「な、何だとー？」

兵士一（演・リンク）「いわう側に責められたのも時間の問題ですー！」

王子（演・マルス）「むう……。（此處は伝説の剣…しかし…一体どうあるんだ…。）」

シェゾ「此處は…湖か…。」

森の中にある湖にやつて来たシェゾ。

シェゾ「…あれば…。」

シェゾは湖の真ん中にある離れ小島にやつて來た。

シェゾ「…何だこれは？…だいぶ時間がたつているようだが…。」

アリス…。

なのは「あ、ああ…お前か…。」

シェゾ「あ、ああ…お前か…。」

なのは「ここの地図なんだけど、地形が何?」

ショゾ「本当だな。」の呪がこれなのか?」

なのは「一体何これ?」

ショゾ「あ、俺には分からぬ。」

と、その時。

『助けて…。』

なのは「!?

何かが訴えかけるような声が聞こえてきた。

なのは「ねえ…ショゾ君、今何か言った?」

ショゾ「?何も言つていなーいが…。」

なのは「…え?じゃあ今のは一体…。」

『助けて…。』

なのは「…今声が…。」

ショゾ「何を言つているんだ? 何も聞こえないぞ?」

なのは「え?」

『どうやら謎の声はなにしか聞いたいないようだ。』

ショゾ「此処は見つかりやすいな…悪いが先に移動してる。」

なのは「あつ…。行つちやつた…。」

ショゾはなのはを置いてどこかに行つた。

なのは「でも…一体…誰?」

『私たちは…』の森に住む妖精です…。』

なのは「妖精…?」

『はい…現在この国が海賊の手に侵されています。この王国を…海賊の手から救つてください!』

なのは「でも…一体ビビついたら…。」

『私たちを王子様の元に連れて行つて下さー。』

なのは「王子?」

『はい、富殿前にいる王子様の元に連れて行つて下さー。』

なのは「でも…ビビつてるので…」

『あ、申し訳あつません。私たちは此処です。』

パツ

なのは「うわー！」

すると、なのは目の前に一人の小さな妖精が現れた。

なのは「あれ？でもどこかで見たことがある……。」

妖精1「気のせいではないでしょうか……？」

なのは「うーん…そうかも…。所で名前は？」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「私はミントと言います。」

妖精2（演・アインハルト・ストラトラス）「私はマナと言います。」

なのは「そう…よろしくねー！」

マナ（演・アインハルト・ストラトラス）「はい、では参りまじゅう
！」

なのは「うんー！」

シェゾ「あいつは一体誰と話していたんだ…？一人で勝手にしつら
ちは着くし…。」

シェゾが会話をしている所を見ていた。

シェゾ「まさかあいつには特別な力がある」。

果たして、この国の運命は！？

ゲーム終了まで64分12秒 残る逃走者21人

ゲーム再開！（後書き）

最近実力テスト、期末テストが近付いてきています。

そのため更新が遅れる可能性があります。

感想返信もなかなかできなくなると思います。

でも頑張って更新はしていきます。

では、よろしくお願いします。

H國の運命は（前書き）

太鼓の達人の新しい機体がこの11月以内に出るらしい。

これは絶対にやらねば！！！

大臣の陰謀によって乗っ取られてしまった王国。

そして、この国に伝わる伝説…。

逃走者たちがこの国で起つる様々な出来事に巻き込まれていく…。

フェーリ「森は静かね…。」

森の中でたたずむフェーリ。

フェーリ「…！」

フェーリが何かを見て急いで隠れた。それは…。

なのは「はあ…はあ…。」

走つて来た高町だ。

フェーリ「何で走つているのかしら…ハンターが来てる…？」

当麻「うわ〜…不味いな〜…此処は視界が悪いな…。」

港町にやつて来た上条。

当麻「いきなりハンター来たら捕まるな…。」

シグ「う〜…。」

森を移動中のシグ。

シグ「虫さんどこかな〜…。」

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

シグ「う〜…あつ、いた。」

ハンターを見つけたシグ。

ハンター「！」

ハンターにも見つかった。

シグ「うわ〜不味い〜。」

逃げるシグ。

シグ「うわ～。助けて～。」

ポン
シグ 確保 残り 20人

シグ「捕まっちゃった～。」

美琴「『森の中にシグ確保。残り20人。』」

アミティ「シグが捕まっちゃった～！」

はやて「庭園か～。」

庭園に潜む八神。

はやて「広いし隠れ場所も…つて不味い不味い…。」

しかし…。

ハンター「…」

ハンターを見つけた。

はやて「早く行ってくれや…。」

ハンター「…！」

しかし、見つかった…。

はやて「不味い！見つかってしもた！」

庭園の中を、逃げる八神。

はやて「うわあああああ…！」

ポン

八神はやて 確保 残り 19人

はやて「う、嘘や～…。」

最強の魔導師、此処に散る…。

シグナム「なつ…？主が確保だと…？」

ヴィータ「オイオイマジかよ…。」

フェーリ「連續で確保ね…。」

ウイッチ「宮殿大きいですわね…。」

宮殿を眺めるウイッチ。そこ…。

なのは「…王子女さんがいるところって…。」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「はい、此処です。」

高町がやつて来た。

ウイッチ「…！何々…。」

なのは「あ、あの人かな？」

妖精2（演・アインハルト・ストラトス）「はい、あの人です！」

ウイッチ「何で走ってるのかしら？」

なのは「王子女さん…。」

王子女（演・マルス）「はい、何でじょつか？」

なのは「え？マルス君…だよね？」

王子（演・マルス）「いや、人違いだと思いますが…所でその肩の
は…。」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「私たちは伝説の勇者が使用してい
た剣を守護する妖精です。」

王子（演・マルス）「妖剣を守護する精…？」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「はい。」

妖精2（演・アインハルト・ストラトス）「あなたは、選ばれし者
なのです。」

王子（演・マルス）「僕が…。」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「はい、では私たちについてきてく
れませんか？」

妖精2（演・アインハルト・ストラトス）「剣の場所まで案内しま
す。」

王子（演・マルス）「わ、わかりました。」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「ここまで案内していくつてあり
がとうございました。」

なのは「いやいや…。」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「お礼と言つては何ですか…あなたたちを追つている黒いのを1体消してあげましょうか？」

なのは「ほ、本当！？」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「はい。」

なのは「あの…だったらお願ひします…。」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「分かりました。では…。」

ピカアアア…。

ハンター「…！」

ボン！

ハンター1体 消滅

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「これで完了です。ではこちらに…。」

王子（演：マルス）「わ、わかりました！」

そして、妖精と王子は森の中に向かって行つた。

なのは「何だつたんだろう…。」「

そこに「ウイッチがやつて來た。

ウイッチ「あなた何を話していたの?」

なのは「え、妖精さん達と…。」

ウイッチ「妖精…？そんなのいたかしら…？」

なのは「え！？いたよ！私の肩辺りで…。」

ウイッチ「いや、見えませんでしたわよ？」

なのは「そ、そんな…本当なんだけど…。」

ウイッチ「ふ～ん…私の見間違いかしら？」

ピリリー・ピリリー・

フュイト「何々…。」

レミコア「『高町なのはの活躍によってハンター1体が消滅。合計
3体となつた。』」

シェゾ「ほんとか」れはー？

フュイト「なのさすいーーー。」

その頃…森の中では…。

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「…あらです…。」

王子（演・マルス）「これが…。」

妖精2（演・アインハルト・ストラトス）「はい。時間が経つしまっていますが伝説の勇者が使用していた剣です。」

王子（演・マルス）「これをどうすれば…。」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「剣を握つて引き抜いてください。」

妖精2（演・アインハルト・ストラトス）「あなたが正義の心を持つ人間なら引き抜き終わつた瞬間にこの剣は復活を遂げます。」

王子（演・マルス）「わかった。やってみる。」

そして、王子は剣を握り…。

王子（演・マルス）「くつ…。」

ゆっくりと引きぬいた…。

王子（演・マルス）「…はあ…。」

パアアアアアアアア…！…！

すると、剣が光に包まれ、光りが収まるとそこにはまばゆい光を放

つ剣があった。

王子（演・マルス）「これが…前節の勇者が使っていた…。」

妖精1（演・高野、ヴィヴィオ）「あ…これでこの国を救つてください…！」

妖精2（演・アインハルト・ストラトス）「海賊たちから王国を救うのです…！」

王子（演・マルス）「分かつた…では行け!」

船員「王子が来たぞ!」

船員「やつひとつちまえ…！」

王子（演・マルス）「この国を…救つて見せる…はあ…！」

カキイイイン…!!

船員「ぐわああ…！」

王子（演・マルス）「はあああ…！」

船員「ぐわつ…！」

船長（演・涼宮ハルヒ）「やつてくれるわね…あなたたち、やつてしまこなさい…！」

船員たち「はい！」

王子（演・マルス）「僕はお前たち海賊には負けない……」

力キイイイイン……！

船員たち「ぐわあああ……！」

船長（演・涼宮ハルヒ）「嘘うそ……。」

チャキ……。

王子（演・マルス）「観念じろ。」

船長（演・涼宮ハルヒ）「ぐつ……。」

国王（演・新川）「……王子……」

王子（演・マルス）「王様、海賊たちをもつつけました！」

国王（演・新川）「何と一体どうして……その肩にいるのは？」

妖精1（演・高町ヴィヴィオ）「私たちは剣を守護する妖精です。」

国王（演・新川）「まさか……伝説の勇者の……？」

妖精2（演・アインハルト・ストラトス）「はい。王子によつて王

国は、海賊の手から救われました。」

国王（演・新川）「そ、うか…よくやつただ王子！」

王子（演・マルス）「いえいえ…。」

国王（演・新川）「國を挙げてお祝いをするのじゃー。」

家来たち「ははーっ！…！」

そして…王の城の近くの木には…。

船長（演・涼宮ハルヒ）「へへ…。」

大臣（演・KAITO）「へへ…。へへ…。へへ…。」

「…！」

海賊の船長と大臣がじばりつけられていた。

逃走者たちの協力によって王国は救われた。

しかし、まだゲームは終わらない…！」

H國の運命は（後書き）

最近逃走中の情報がちょっとだけ入ってきてる。

さすがに埼玉県のどこかで収録したらしい。

気になる……放送田……。

MISSION? 1 (前書き)

此処からあと二つらが絡みだします。

そして、ミッション4発動。

MISSION? 1

逃走者たちの協力によって王国は救われた。

しかし…。

恐怖のゲームはまだ、終わらない…。

サタン「ハンター1体が減つたのは大きいな…。」

先ほど、高町なのはの活躍によってハンター1体が消滅した。

サタン「これは…行けるかもな…。」

スネーク「ハンター1体減つたから少しは安心だな…。」

シェゾ「いける…逃げ切れん…。」

レミコア「ハンター減つてもいなくなつたわけじゃないんでしょ？
だから油断はできないわ…。」

シグナム「……ハンターが近付いてくる……。」

双眼鏡でハンターの接近に気付くシグナム。

シグナム「此処から離れよう……。」

レムレス「今何分?……まだ60分切った所か……。」

庭園に隠れるレムレス。

その彼に……。

ハンター「……。」

近づくハンター……。

レムレス「まだ……つてハンター……?」

ハンター「！」

気付かれた……。

レムレス「残したかつたけど……仕方ないか……。」

レムレスはもつていた無敵サングラスをかける。

ハンター「……?」

ハンターは追うのをやめた。

レムレス「確かに分だつけ？此処から離れておいでつか……」

そのハンターが…。

アミティ「皆のためにも頑張らないとねー！」

アミティに接近！

ハンター「…」

見つかった…。

アミティ「う~ん…って来てる~…！」

ハンターに見つかったアミティ。逃げ切れるのか！？

アミティ「うわわわ…!…!…!

ヴィータ「追いかけられてるぜ…。」

その様子を見ているヴィータ。

ヴィータ「あいやあ無理だな…ぶらぶら馬鹿みたいに音を歩いてるから見つかるんだよ…。」

アミティ「わああああ……！」

ポン

アミティ 確保 残り 18人

アミティ「みんな～」め～ん…。」

ふよふよ主人公、此処でばたんきゅ～…。

ピリリ…ピリリ…。

フェイト「えつと… 確保情報…。」

シグナム「アミティ確保。残り18人。」

シェゾ「あかふよ帽のやつか…。」

ヴィータ「やつぱり捕まつたな！動くよりも動かない方がいいって
言つのにさ…。」

なのは「あつ…。」

美琴「あら…。」

御坂が、高町と合流。

美琴「あなた確かハンターー一体消したらしいわね…。どうやって消したの？」

なのは「あの、なんかいろんなことしたら消してくれて…。」

美琴「ちょっとそのこと教えてくれない？」

なのは「あ、あのね…。」

と、そこに…。

アイク「はあ…はあ…。」

アイクがやつて來た。

美琴「あら、どうしたの？そんなに息を切らして…。」

アイク「ハンターが来てる！」

なのは「えつ…？」

アイクはハンターを見かけて逃げて來たようだ。

アイク「早く逃げた方がいい！捕まるぞ！」

美琴「分かったわ！」

御坂、高町もつられて逃げる。

ハンター「…。」

ハンターがやつて来たが見つかなかつたようだ…。

アイク「良かつた…。」

フェイエット「まだミニシジョンあるのかな…？まだ結構時間あるし…。」

その頃…。

? 「もう終わりか…つまらないな…。」

逃走中の様子を観察している謎の男…。

? 「もうちょっと盛り上げるためにこんなのでも送つておくか…。」

すると、男はある操作をし…。

パアア…。

力チャン!!

大臣（演・KAITO）「…ん?何だこれは…刃物か…?」

大臣の近くに刃物が転送された。

大臣（演・KAITO）「よし…これでこの縄を切れる…。」

大臣は刃物を使い縄を切り、脱出する。

大臣（演・KAITO）「早いところな所はおさらばだ…。」

そして、港町に泊まっている船に向かう…。

剣士（演・古泉一樹）「何!? 大臣が逃げだした! ?」

兵士2（演・クロノ・ハラオウン）「はい…先ほど確認したら縄を切られていて…。」

剣士（演・古泉一樹）「今すぐに探し出せ! そしてとらえるんだ!」

兵士1（演・リンク）「は、はい!」

剣士（演・古泉一樹）「探させるのは他のやつらに任せるとお前たちは宮殿前で協力してくれる人たちにこれを渡せ!」

兵士1（演・リンク）「わかりました!」

そう言って、渡されたのはアイクが持っていた捕獲網と似たような網鉄砲だった。

此処は……「コントロール室」。

ビーッ…ビーッ…

今宵「……な、何だ！？……これは……？」

今宵は、今起きた出来事を見て、驚愕する。

今宵「こんなことままず起こりなはず……だとすると外部のものが何かしたな……。」

今宵は考え込むが……。

今宵「まづはこの事をどうするかだ……よし、//シラクンとして発動するか……。」

そして、港町に泊まっている船にハンター10体が設置された。

ピココー・ピココー！

フユーリ「何々……→//シラクン……？」

レミコア「『大臣』が逃げだした。』

シグナム「『大臣』は港町に泊まっている船に向かっていて、船に乗

り込み、この国から逃げ出せりとしている。『諦めの悪い奴だな…。』

スバル「『残り35分になると、大臣が船にたどり着き、それと同時にハンター10体が放出される。』は、ハンター10体!?』

レムレス「『それを阻止するには宮殿前にいる兵士たちから網鉄砲を貰い、それで大臣をとらえなければならぬ。』」

アイク「網鉄砲…?」

ミッショーン4 ハンター10体放出を阻止せよ!-

大臣が逃げだし、港町に泊まっている船に向かっている。
残り35分になると到着し、それと同時にハンター10体が放出される。

それを阻止するには宮殿の前にいる兵士たちから網鉄砲を貰い、それで大臣をとらえなければならない。

マリオ「ハンター10体つて不味いぞ!-!」

スバル「もちろん行きます!ハンター増やしたくはありませんから!-!」

フュイト「やっと活躍できるので行きます!-!」

なのは「行かない」とダメでしょう！！」

美琴「もちろん行くわ！」

当麻「行くぜ……」

黒子「お姉さまと一緒にクリアしますわ……！」

アイク「どうかな……さつきハンター見たからな……行きたくないな……。」

ヴィータ「誰かやるだろ……ミッションやっていい人ぶるうとする偽善者がさ……！」

サタン「任せるとか……。」

シェゾ「めんべくせえ……。」

十六夜「遠いので……任せます……。」

逃走者たちに発動されたミッション4！

ハンター10体の放出を防げるのか！？

MISSION? 1 (後書き)

逃走者たちはハンター10体放出を防げるのか！？

サタン「えーと…。」

何見ているんだサタン。

サタン「ほんのりんなり」とを考へていたのか…。」

え？ つてああああ――！――それはあああ――！――！

ふ……危なかつた……。

アイク「何考えていたんだよ…。」

今見せたら危ないんだよ！」ちばうちで進めて来たから！

アイク「もつと気になる...。」

サタン「ぐふ…後書きで…ヒント…教えるからな…。」

MISSION? 2

逃走者たちにミッション4が発動された。

大臣を残り35分までにとらえないとハンター10体が放出される。

果たして、逃走者たちは大臣をとらえることができるのか…?

「フュイト」これは行かないと…」

ミッションに果敢に向かうフュイト。

「フュイト」やつと活躍ができるし…あと10体は不味いから…」

ハンター放出阻止に向かう。

「ウイッチ「よつと、此処ですわね。」

宮殿の近くにいたため一番乗りでやつて来たウイッチ。

「ウイッチ「あなたたち、何してますの?」

兵士1（演・リンク）「いや、大臣をとらえてくれるやつを探して
いるんだが…。」

ウイッチ「じゃあ協力してあげますわ！」

兵士1（演：リンク）「本当かーじゃあこれを使つてくれー！」

ウイッチ 網鉄砲獲得

兵士（演：リンク）「使い方はだな…こうでこうだ。」

ウイッチ「わかりましたわ。では行つて来ますわ！」

ウイッチ、大臣捕獲に向かう！

ウイッチ「でもどこにいるんでしょうか…。」

その頃…大臣は…。

大臣（演：KAITO）「不味いな…今港町を進むとやつらに気が付かれる…遠回りになるが森の中を進んでいこう…。」

森の中へと向かつて行つていた…。

レムレス「誰かやつてくれないかなー…。」

ミッシュョンに消極的なレムレス。

レムレス「さつき無敵サングラス使ったからね～…あつたら行って
いたけど…。」

十六夜「きれいな海ですね…。」

海を眺める十六夜。

ハンター「…。」

そこにハンター…。

十六夜「…一ハンターいました…。」

ハンターを見つけて逃げる十六夜。

十六夜「はあ…はあ…。」

しかし…距離はだんだん縮まっていく…。

十六夜「…つ…！」

ポン

十六夜咲夜

確保

残り

17人

十六夜「悔しいですね…ミッションに行つた方が良かつたかも知れません…。」

スネーク「確保情報…。」

スバル「『十六夜咲夜確保。残り17人。』」

レミコア「ついに捕まってしまったのね…。」

サタン「こいつ…逃げ切りそうだつたんだが…。」

スバル「着きました！」

フェイト「あつ、なのは…」

なのは「フェイトちゃんも来たんだ!!」

美琴「着いたわ…。」

スバル・ナカジマ、フェイト・T・ハラオウン、高町なのは、御坂
美琴が到着…。

兵士1（演・リンク）「あなたたち…協力してくれるんですか？」

スバル「大臣の捕獲に協力してあげるわ！」

なのは「だからそれを……。」

兵士1（演・リンク）「わかりました！では……。」

スバル・ナカジマ フェイト・T・ハラオウン 高町なのは 御坂
美琴 綱鉄砲獲得

スバル「よーし……これで捕まえるぞー！」

しかし、大臣の捕獲に向かえばハンターに遭遇する危険性が高まる！

ヴィータ「何だよ…誰も行つていなか…！？メールが来ないぞ
…！」

クリアのメールが来ないことに腹を立てているヴィータ。

ヴィータ「ちつ…じいつもこいつも役に立たない奴らだなあ！早く
クリアしろよ…。」

愚痴をこぼす……。

ヴィータ「そういうやリーダーはミッションに行くのか？」

シグナム「ううむ…此処からこう行って…。」

ピコココー・ピココリ！

シグナム「うわー何だ何だ…ヴィータからか？」

ピッ

シグナム「何だ？電話かけてきて…。」

ヴィータ「リーダーはミッションに行くのか？」

シグナム「行いつて思つている。ですがにこの狭さで10体は不味いからな…。」

ヴィータ「そうか…。」

シグナム「ヴィータの方はビッグなんだ？」

ヴィータ「行つてみるだけ行つてみる…。」

シグナム「そうか…捕まるなよ…。」

ヴィータ「リーダーもな…。」

ピッ

ヴィータ「リーダー…行つてミッションクリアしてくれ…。」

フェーリ「あら…宮殿から近いわね…。」

現在宮殿近くにいるフェーリ。

フェーリ「行ってみようかしら…。」

だが、進む先にハンター…。

フェーリ「…！ハンターいた…！」

ハンター「！」

見つかった…。

フェーリ「何よ…来てるじゃない…嫌…捕まえないで…嫌嫌嫌嫌あ
ああ…！…！…！」

ポン

フェーリ 確保 残り 16人

フェーリ「先輩…いい所を見せられませんでした…。」

レムレス「えつ…？フェーリも確保…？」

アイク「どんどん捕まつて行っている…。」

黒子「お姉ちゃん...『じ』なの...。」

御坂を探す白井。

黒子「...!」

しかし、見つけたのは...。

ハンター「...。」

ハンター「...。」

黒子「不味いですわね...。」

ハンターが通り過ぎるのを待つ...。

ハンター「...。」

黒子「...。」

ハンター「...。」

見つかからなかつたようだ...。

黒子「危なかつたですの...。」

マリオ「うわちだな……。」

ミッシュコンに向かうマリオ。

マリオ「今いい所全然ないし……此処で少しでもいい所を見せられた
う……。」

ハンター「……。」

レミコア「行つてゐのかしら……。」

シェゾ「行かねえよ……だつてめんどくせえから……。」

サタン「動いたら見つかりやすくなるからな……。」

ウイック「卑く見つけないと……。」

ハンター「……。」

ハンターが逃走者をとらえた。見つかったのは……。

シェゾ「んな……ハンターかよ……。」

シェゾだ…。

シェゾ「くそつ…不味い…！」

逃げる先に…。

当麻「あ…ってハンター連れてきてる！」

上条だ…。

当麻「不味い不味い不味い不味い…！！！！！」

上条もつられて逃げる。

シェゾ「うわあああああああ…！！！！！」

ポン

シェゾ・ウイグイイ 確保 残り 15人

シェゾ「うう…俺は…こんな所で朽ち果てるのか…くそつ…。」

闇の魔導師、ハンターによつて確保…。

サタン「闇の魔導師が捕まつたか…。」

スネーク「不味いな…エリアが狭いからどんどん確保されて行って
いるぞ…。」

当麻「あいつ捕まつたか…。」

スタッフ「ミッションにはいかないんですか?」

アイク「行かないな…。」

ミッションに参加しないアイク。

アイク「今たくさん確保されているし…捕まりそうだからな…。」

現在大臣は森の中を移動中。果たして、捕獲できるのか!?

ゲーム残り時間 47分32秒 残る逃走者15人

MISSHON? 2 (後書き)

サタン「前書きの」とだが今からあるヒントを言つ。 これにポンと来るやつはいないと思つがまあ言つておけ。」

内容のヒント「？」

サタン「では次回もヒント「言わせるかあああ……」ああああ……！」

アイク「もつと血のどへ席「うおりやああああ……」肉のひらう……！」

シグナム「なんかカオスの方向に近づいていいか？」

フラン「それは大丈夫よ。全く近づいていいから。」

シグナム「そうか。」

ちなみにヒントは「席です。これでポンときたらいい。」

まあ増えたりはすると思いますが。

ちなみに現在逃走者たちによると僕の好きなアニメ＆ゲームのキャラで逃走中のD.V.Dが発売しているらしいです。（今の所全1巻）

MISSION? 3 (前書き)

えー…今回この「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中!」
王国に迫る危機~」でついこ。
。

祝・100000アクセス突破！

アイク「マジかー！」

サタン「奇跡とは起らるものだな。」

アリス「そうよねえ。」

カーバンクル「ぐぐぐ。」

これもみなさんの応援のおかげです！

これからも頑張っていきます！

レムレス「ためる」とは無いよね？

はい、そうですね。すいません。

MISSION? 3

逃げる大臣を残り3~5分までに捕獲しなければ10体のハンターが放出される！

現在大臣を捕獲する網鉄砲を持っているのはウイッチ、スバル・ナカジマ、フェイト・T・ハラオウン、高町なのは、御坂美琴の5人！

果たしてミッションをクリアできるのか！？

ウイッチ「中々見つからないですわね…。」

現在大臣を探しているウイッチ。

ウイッチ「多分港町にいると思ったんですが…見当違い？」

なのは「分かれて探してみない？そっちの方が早く捕まえられると思うし…。」

美琴「そうね。その方がいいわ。」

なのは「じゃあこいつしない？」

高町なのは フェイト・T・ハラオウン 森

御坂美琴 港町

スバル・ナカジマ 宮殿の周り

スバル「わかりました！では行つてきます！」

なのは「行こう、フェイトちゃん！」

フェイト「うん、なのはー！」

美琴「じゃあ探しに行きましょうかね…。」

果たして大臣を見つけられるのか！？

牢獄

靈夢「まだリッシュ・ショーンクリアのメール来ないのー！？」

シャマル「確か10体のハンターでしたよね？」

ルイージ「そんなに放出したら全滅になっちゃうよー。」

インテックス「早く来ないかなー…。」

アルル「どうなつちやうんだらう。」

カーバンクル「ぐぐ。」

スネーク「俺も行つてみるか。」

スネークもミッショソに向かう。

ヴィータ「早くクリアしろよ。何してんだよ。」

愚痴を言つてゐるヴィータ。

ハンター「。」

そこにハンター。

ヴィータ「くそつ。」

ハンターを見つけ、隠れるヴィータ。

ヴィータ「何でハンターが来るんだよ。早く行けよ。」

ハンター「。」

ヴィータ「気付くな……。」

ハンター「…。」

ヴィータ「…あぶね…。」

「ひりせりじつ遇いしたよつだ。」

ヴィータ「今捕まつたら賞金が飛んでいくからな…気をつけねえと…。」

果たして、ヴィータは賞金を獲得できるのか！？

シグナム「着いた…。」

マリオ「おーい！」

シグナム、マリオが到着…。

兵士1（演・リンク）「お前たちも協力してくれるのか？」

シグナム「ああ。協力する。」

マリオ「だから…それを…。」

兵士1（演・リンク）「わかつた。」

シグナム マリオ 網鉄砲獲得

シグナム「しかし一体どこにいるのか…。」

マリオ「絶対に捕まえて汚名返上だ！」

シグナム、マリオも大臣を探す…。

庭園の中にいるレムレス。

レムレス「此処まで怖いことってないよね～。」

その彼の近くに黒い影…。

? 「…。」

レムレス「あそこで使つたのが惜しかったな～。」

? 「…。」

レムレス「ほんとに…！」

サタン「す、彗星の魔導師か…。」

サタンだ……。

レムレス「所で……ミッションはやるの?」

サタン「先ほど3人連続だからな……少し様子見た。」

レムレス「僕もね……。」

サタン「だが今は3体だろう? 何で3人連続も確保されたんだ?」

レムレス「そりだよね……一体何があるのかな……。」

サタン「さあな……。」

フュイト「いないな……。」

大臣を探すフュイト。

フュイト「なのは~見つけた~?」

なのは「いないよ……この森広いからね……。」

フュイト「でもどいかには確實にいる、探し出せ~!~。」

なのは「うん~。」

レミコア「誰か行つてゐるのかしら。」

東方project組の生き残りとなつたレミリア。

そこに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

レミコア「はあ…待つてゐる暇だわ…。」

ハンター「…！」

見つかつた…。

レミコア「…つてちよつと來てるじゃない!」

ハンターを見つけ、一目散に逃げるレミリア。

レミコア「ちよつと速すぎよーちよ…キヤアアアー！…！」

ポン

レミコア・スカーレット 確保 残り 14人

レミコア「もう…悔しいわよ…」

東方Project組…全滅…。

スバル「レミコアさんが確保されましたか…。」

魔理沙「つてこれ東方組全滅じゃんかよ…。」

靈夢「ちよつと…。」

スネーク「不味い…。」

シグナム「時間が迫つてきている…。」

なのは「あーいたあー。」

大臣を見つけた高町。

なのは「これで捕まえるんだよねー。」

高町は大臣に近づく。

大臣（演：KAITO）「！？」

なのは「えいっー！」

ポンッ

高町によつて大臣は……。

大臣（演：KAITO）「あ…危なかつた…。」

捕獲されなかつた…。

なのは「あー！不味い！届かなかつた！」

届かなかつた…。

フェイド「なのは！」

なのは「フェイドちゃん！大臣が…。」

フェイド「わかつた！」

フェイドは大臣がいた方向に行くが…。

フェイド「…！ハンター！」

そこにハンター…。

なのは「ハンターいたの?」

フュイト「うん…今行つても捕まるだけ…。」

なのは「そう…『めん、私が捕まえられなかつたばっかりに…。』

フュイト「いじよ。そんなことよつこじを離れよう。」

なのは「うん、分かつた…。」

大臣（演・KAITO）「危なかつた…。」

大臣は、逃れたようだ…。

当麻「ど二だよ一体…。」

未だにたどり着けていない上条。

当麻「あー…ど二だ…。」

アイク「まだメール来ないな…。」

港町にいるアイク。

ハンター「…。」

そこにハンター…。

アイク「う…ん…ってハンター…！」

ハンター「…！」

ハンターに見つかったアイク。

果たして逃げ切れるのか！？

ゲーム残り時間41分32秒 残る逃走者14人

シェゾ「前回の続きをどうぞ。」

サタン「言つたらまたなんか言われそうだな……。」

シエゾ「そうだな…」

「……サタン」「あ、気にせず『言わせないいいいいい……』『あやああああ！

シエゾ「...。」

MISSION? 4 (前書き)

ハンターに見つかってしまったアイク。

果たして…その運命は…?

MISSION? 4

アイク「まだメール来ないな…。」

アイクに迫る…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

アイク「うーん…つてハンター…！」

ハンター「…！」

ハンターに見つかってしまったアイク。

果たして逃げ切れるのか…？

アイク「くっそ…！もう捕獲網使ったから逃げるしかねえのかよ…！」

アイクは建物の角を曲がり、ハンターとの距離を広げていく。

ハンター「…？」

そして、ハンターを撒いてしまった。

アイク「ぜえ…ぜえ…なんとか撒いた…。」

アイクは建物に寄りかかる。

アイク「此処で休もう…。」

黒子「お姉さまは一体どこでゐるんでしょうか…？」

御坂を探す白井。

黒子「見つかりませんわね…。」

ウイッチ「どうしてゐるんでしょう…？」

大臣を探すウイッチ。

ウイッチ「…不味いですわ…。」

見つけたのは…。

ハンター「…。」

ハンター…。

ウイッチ「戻らないと…。」

ハンターと距離を取る。

シグナム「此処にはいないようだな……。」

宮殿付近で大臣を探すシグナム。

シグナム「どうやら別の場所にいるらしい……。」

そこへ……。

ハンター「……。」

ハンターが接近……。

シグナム「……不味い……。」

逃げるシグナム。逃げた先に……。

スネーク「行くか……。」

スネーク「……。」

シグナム「ハンター来てるぞ……。」

スネーク「な、何だと！？」

シグナムにつられて逃げるスネーク。ハンターの標的は…。

スネーク「俺か！？」

スネークだ…。

スネーク「うお～！」

ポン
スネーク 確保 残り 13人

スネーク「ミッショーンに行こうとした矢先に…。」

巻き添えを食らつた…。

アイク「メール…スネーク確保！」

シグナム「巻き添えにしてしまつた…。」

ミッション終了まであと一分半！

サタン「？あれば…。」

サタンが見つけたのは…。

大臣（演：KAITO）「此処からならいけるな…。」

大臣だ…。

サタン「！此処は…メールだな！」

サタンはメールを書く。

サタン「送信…！少しば役に立つたな…。」

ピリリ…ピリリ…。

なのは「？メール…？」

当麻「サタンってやつからだ！」

レムレス「何々…『今、宮殿前の道で大臣を見た。網鉄砲を持つて
いる奴は向かってくれ。』」

フェイト「なるほど…行こう…。」

ウイック「こっちですわね。」

スバル「よーし、行くぞー！」

マリオ「行くぞー！」

大臣（演・KAITO）「あともう少し…あと少しで…」

フェイト「いた！大臣！」

大臣（演・KAITO）「何…？なりこっちから…」

マリオ「残念だがこっちは逃げられないぞ…」

大臣（演・KAITO）「何…？」

ウイック「追い詰めましたわ…」

スバル「もう観念しろ…」

大臣（演・KAITO）「う…う…」

美琴「その罪…自分で償いなさい…」

シグナム「よし…やるぞ…いつせーので…」

全員「おりやあああ…！」

大臣捕獲 MISSION CLEAR

大臣（演：KAITO）「くそ…。」

兵士1（演・リンク）「あ！大臣が捕まつてゐるぞ！」

兵士2（演：クロノ・ハラオウン）「ありがとうございます！さあ
いっしに来るんだな！」

シグナム「やつたぞ！」

スバル「やりました！」

「ウイッキー良かつたですわ！」

マリオー サイタ!

逃走者たちの協力によつて大臣は捕獲された……。

ピリリ！ピリリ！

なのは「メール…ミッショングクリア！」

当麻「『フロイト・T・ハラオウン、マリオ、ウイッチ、スバル・ナカジマ、御坂美琴、シグナムの活躍により大臣が捕獲されたため、ハンターの放出は無い。』良かつた…。」

サタン「良かつたぞ…。」

アイク「団結か…結成力がすごいな…。」

黒子「お姉さま…すいこですの…。」

シグナム「団結するとどんな壁も乗り越えられるものだな。」

マリオ「よし、このまま逃げ切ろう…。」

6人「おー！」

ミッションをクリアした6人に…。

ハンター「…。」

ハンターが接近！

ウイッチ「ふ…つてハンター来ましたわよ…。」

シグナム「何！？」

美琴「こんな時に…！」

ハンターに見つかってしまった6人。逃げ切れるのか！？

フェイド「クリアしたばっかなのに…！」

スバル「うわあああああ…！…！…！」

ゲーム終了まで35分02秒 残る逃走者13人

MISSION? 4 (後書き)

ハンターに見つかった6人。

果たして逃げ切れるのか！？

MISSION? 1 (前書き)

感想が20件に到達しました。

ありがとうございます！

ハンターに見つかった6人。

果たして逃げ切れるのか！？

MISSION? 1

ミッションをクリアした6人に…。

ハンター「…。」

ハンターが接近！

「ウイック、ふう…ってハンター来ましたわよ！」

シグナムー何!?

美琴 - 「こんな時に…！」

ハンターに見つかりました6人。

アヨイト・ケリアしたは、かなのは」！」

ハンターが視界はどうえたのは…

ウイツチだ。

「ウイツチ「嫌」！」

ポン

ウイッチ 確保 残り 12人

ウイッチ「うう…どうして?」

復活したウイッチ、牢獄へ逆戻り。

シグナム「はあ…はあ…撒いたか…?」

美琴「ハンターは撒けたようね…。」「

なのは「メール…確保情報!」

マリオ「ウイッチ確保!…セイリッシュョンクリアしたのに…?」

レムレス「復活組がやられた…。」「

サタン「あと35分ほどか…まだまだ長いな…。」「

ゲーム終了まであと34分半。まだまだ先は長い。

サタン「この時間がもどかしいな…。」「

ヴィータ「ミッションをクリアしたか…。」

先ほどのクリアメールを見ながらつぶやくヴィータ。

ヴィータ「こいつらミッションクリアしたらいい奴に見られるつて思つてやつてるんだるうな！偽善者ぶつてるやつらばかりだから…リーダーはいい奴だぜ？リーダー以外のやつを言つているんだぞ！」

アイク「今…12人か？結構減つたな…。」

現在はハンター3体に対し、逃走者は12人。

アイク「もうすぐ一桁か…。」

当麻「此処にいよが…。」

庭園の中にやつて來た上条。

当麻「…あれ？誰かいる…。」

その誰かとは…。

レムレス「早く過ぎてくれないかなーーー。」

レムレスだ。

当麻「…何やつてんだ？」

レムレス「うわあーいきなり声出さないで…。」

当麻「お、すまん…。」

レムレス「ハンターこないか見張つているんだよ…。」

当麻「そつか…。」

合流した二人…。

スバル「此処まで来たら残りたいな…。」

先ほどのミッションに貢献したスバル。

ハンター「…。」

そこへ近づくハンター…。

スバル「…あつ、ハンター…。」

ハンター「！」

気付かれた…。

スバル「不味い！」

ハンターとの距離を取るスバル。

ハンター「…？」

ハンターの視界から消えた…。

スバル「なんとか撒けた…。」

このまま逃走成功を果たせるか！？

シグナム「主はやてのためにも頑張らないとな…。」

森の中を移動中のシグナム。

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

シグナム「しかしこの中は視界が悪いな……いつ出でくるかわからん。」

「

ハンター「…。」

シグナム「いったん戻るか…。」

ハンター「…！」

シグナム「んなつ！？」

ポン
シグナム 確保 残り 11人

シグナム「くそつ…。」

ヴォルケンリッターの将、此処で敗れる…。

フェイト「確保情報…シグナム確保…。」

ヴィータ「何！？リーダー確保されたのか！？」

なのは「森の中…つてここじゃん！」

美琴「絶対逃げ切つてやるわー。」

逃走成功に燃える御坂。

美琴「ハンター1体だけならいいけれど複数とかだとどうつ
と危険なのよね。」

サタン「しかしそまだ30分以上もあるな…まだ何かあるかもな…。」

スタッフ「何がですか?」

サタン「ミッションとかだ。」

今宵「わざわざのめがけてみたが…一体何なんだ?」

先ほどの出来事のことを考える今宵。

今宵「あとで調べてみるか…よし、ミッション発動だ。」

そして、ミッションが発動…。

逃走者がいる王国に向かつ一隻の船…。

通報部隊「…。」

ハンター「…。」

その船に、甲冑を着た9体の通報部隊と5体のハンターが乗っていた。

今宵「よし…この間に調べるか…。」

そして今宵は先ほどの出来事を調べ始めた。

ピココ…ピコリ…。

サタン「ミッション5…来たか…。」

ヴィータ「この王國に一隻の船が向かっている。『船?』

なのは「その船には9体の通報部隊と5体のハンターが乗っている。』」

アイク「『残り10分になるとエリア内に到着し、エリア内に放出される。』そうしたら逃げ切るやつはいないんじゃないのか!?!?」

レムレス「『阻止するにはエリア内に設置されている船誘導装置のレバーを4人で下さなければならぬ。』4人!?!?」

当麻「これ…放出されたらまづいんじゃないのか!?!?」

ミッション5 通報部隊とハンター放出を阻止せよ…

現在逃走者たちがいる王国に一隻の船が向かっている。その船には甲冑を着た9体の通報部隊と5体のハンターが乗っている。

残り10分になるとエリア内に船が到着し、通報部隊とハンターを放出する。

通報部隊は3体一組で行動し、逃走者を見つけると笛を吹き、笛の音に気付いたハンターが確保に向かう。

放出を阻止するにはエリア内に設置された船誘導装置のレバーを4人で下さなければならない。

ただし、どこに設置されたかは逃走者たちが自力で探さなければならない。

当麻「どこに設置されたかは探さなきやならないのか！？」

レムレス「折角ハンター放出を阻止したのに…。」

美琴「そりゃ行くわよーーんなの逃げ切れるの！？」

フェイト「行けーー！」

なのは「行くよー。」

スバル「もちろん行きますー！」

黒子「行つてみますわ！」

マリオ「行くぞー！」

ヴィータ「行かねえよ……！」

サタン「他のやつらが見つけたら行く……。」

逃走者たちに出されたミッション5！彼らはどのミッションをクリアできるのか！？

ゲーム残り時間29分21秒 残る逃走者11人

MISSION? 1 (後書き)

発動されたミッション5。

逃走者たちはクリアできるのか…?

MISSION? 2 (前書き)

ミッションが発動。

果たしてクリアできるのか!?

アイク「つーか無視だな。舞台。」

すいません。最終ミッション全然思いつかなかつたので。

MISSION? 2

現在逃走者がいる王國に一隻の船が向かっている。

その船には9体の通報部隊と5体のハンターが乗っている。

残り10分になるとエリア内に到着し、エリア内に放出される。

阻止するにはエリア内に設置された船誘導装置のレバーを4人で下さなければならない。

果たしてこのミッションをクリアできるのか…?

フロイト「どうあるのかな…?」

船誘導装置を探すフロイト。

フロイト「つてかどんな形してるの…? まずはそれが分からないと…。」

スタッフ「ミッションビッシュます?」

アイク「行かない!」

ミッションに消極的なアイク。

スタッフ「何ですか？」

アイク「ハンター3体だしまだ11人も残っているし…。」

どうやら他力本願のようだ。

アイク「6人ぐらいになつたら行つてみる…。」

なのは「誘導装置…。」

誘導装置を探すなのは。

なのは「…あつ。」

見つけたのは…。

なのは「不味い不味い…。」

見つけたのは…ハンターだ…。

なのは「ハンターいるな…。」

エリアを動けばハンターに見つかる可能性が高くなる…。

当麻「今俺ら2人いるしあと2人見つければクリアできるんじゃねえか？」

レムレス「そうだね。あとは装置を見つけないと…。」

合流している二人に…。

ハンター「…。」

ハンターが接近…。

当麻「うおっ、ハンター来た！」

レムレス「不味い不味い…！」

ハンター「！」

見つかった…。

レムレス「見つかった！」

当麻「不幸だああああ…！」

ハンターが視界にとらえたのは…。

レムレス「こっちに来たー！」

レムレスだ。」

レムレス「うわああああああああ！――――――――」

ポン
レムレス
確保
残り
10人

レムレス「なんて」つた。この「ミッションに参加したかつたのに……此処で捕まるとは……はあ～……。」

彗星の魔導師・確保・。

当麻「あいつ捕まつた。」

マリオ「あと一人で一桁台いくぞ！」

サタン「あり？ふよふよ組は私だけか？」

スバル「どこにあるんだ？」！？

船誘導装置を探すスバル。

スバル「全然見つからない」。

ヴィータ「くつそ…誰も行つてねえのか…！？」

ミッションがクリアされていない」とに腹を立てるヴィータ。

ヴィータ「どいつもこいつも役に立たねえなー早くしろよ…！」

黒子「見つかりませんの…お姉様も装置も…。」

ミッションに参加している白井。

黒子「全く…もうどうなつてこますの…？」

美琴「逃走者が減つていいくと不味いわね…。」

このミッションをクリアするには4人必要である。つまり逃走者が減つて行くほどクリアしにくくなるのである。

美琴「早く見つけないと…。」

その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

美琴「…！ハンター！」

ハンター「！」

見つかった…。

美琴「何でいつつもこんな時に見つかるのよー。」

驚異の身体能力で逃げる御坂。

ハンター「…？」

何と、ハンターを撒いてしまった。

美琴「はあ…はあ…撒けたようね…。」

サタン「なにも来ないな…。」

港町にたたずむサタン。

サタン「まだ余裕があるがクリアできなかつたら不味いぞ…。」

フェイト「不味い不味い不味い…。」

なのは「どこにもない…！」

スバル「どこにあるの！？」

船誘導装置が、見つからない。

シグナム「クリアできるのか？」

はやて「まず装置を見つけないとなあ…。」

ルイージ「そして4人で下げないといけないんでしょう？」

アリス「全員が協力しないとクリアできないよね…。」

アルル「参加していない人いるのかな～？」

ルル「いるんじゃない？一人は…。」

カーバンクル「ぐぐ？ぐぐ～！」

黒子「見つからないわ…。」

船誘導装置を探す白井。

黒子「……あれば……」「

見つけたのは……。

美琴「どこのかしら……。」

御坂だ……。

黒子「お姉様……………」

美琴「！？黒子！？」

黒子「やつと見つけましたわ……………」

美琴「ちょ、大声出すのやめなさいって見つかるでしょうー。」

黒子「そ、やうでしたわ……。」

美琴「ねえ黒子、装置見つけた？」

黒子「いえ、全然見つかりませんわ。」

美琴「そう……じゃあ見つけた時あと一人呼んでクリアできるようこのままこときましょ。」

黒子「はーーー。」

白井、御坂と行動を共にする…。

当麻「あ～…全然見つからない…。」

「ちらりモニターションに参加している上条。

当麻「でも諦めるわけにはいかねえんだ！！」

船誘導装置を見つけられていない逃走者たち。

果たしてクリアできるのか！？

ゲーム残り時間23分21秒 残る逃走者10人

MISSION? 2 (後書き)

フロイト「果たして逃走者たちはこのミッションをクリアできるのか!？」

アイク「あれ? 何でお前が言っているんだ? 作者はどうした?」

クルーケ「わざわざここで作者が真っ黒に……。」

アイク「え……まさか……。」

クルーケ「ハラオウンの所ハラウォンって書いていたから……。」

フロイト「何か言つた?」

クルーケ「いや、何も……。」

フロイト「ふふふふふ」

アイク「(怖)……。」

MISSION? 3 (前書き)

挿絵やつている人すごいですね……。

とてもきれいだし……。

あんなの僕には作れませんね……はあ……。

MISSION? 3

未だに装置を見つけられていない逃走者たち。

「のままでは一、三分後に通報部隊とハンターが放出されてしまつ。」

果たして、このミッションをクリアできるのか！？

フュイト「見つからない…！」

装置を探すフュイト。しかし、見つからない。

フュイト「どうあるの…。」

アイク「早くクリアしてくれ…！」

ミッションに参加する気のない、アイク。

アイク「こんな所でハンターに捕まりたくない…生き残つて逃げの
びたい…！」

黒子「お姉様…見つかりませんの…。」

美琴「そ、う、よ、ねえ……。」
「あ、る、の、か、じ、り?」

「ち、ち、り、は、装、置、を、探、す、一、人、。

美琴「……隠、れ、て、黒、子、!」

黒子「え、?」

御坂が見たのは……。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

美琴「通、り、過、ぎ、る、ま、で、待、つ、て、…。」

黒子「は、い、…。(お姉様が、こ、んな、に、近、い、…。)」

ハンター「…。」

見つからずに済んだ。

美琴「行、つ、た、わ、…。」

黒子「危、な、か、つ、た、で、す、の、…。」

スバル「此処はどうかな…。」

港町の端っこ辺りにやつて来たスバル。

スバル「…！？これは…。」

見つけたのは…。

スバル「これって機械…まさか！？」

スバルが見つけたのは船誘導装置。このレバーを4人で下げなければミッションはクリアされない。

スバル「皆にメールで位置を教えよう…」

サタン「…ハンター発見…。」

ハンターを見つけたサタン。

サタン「離れようか…。」

その場から急いで離れる。

ピリリ！ピリリ！

サタン「なつー!?」

ハンター「ー?」

突然、サタンの携帯が鳴った。ハンターはその音に気付き辺りを探し始める。

サタン「不味いな…此処にいると見つかる…。」

サタンはその場を離れて行き、ハンターに見つからずに済んだ。

サタン「はあ…はあ…ひやひやしたぞ…なんだ全く…。」

なのは「スバルからだ…。」

フロイト「『港町の端っこ』で誘導装置を見つけましたーあと3人必要ですー!』」

マリオ「つこに見つけたのか!」

当麻「急いで行くぞーー!」

サタン「端っこーー!つちかーー!つきハンターがいた場所じゃないか…今は無理だな…。」

ヴィータ「スバル良くやつたな…早く行つてクリアしてくれ…!」

アイク「端っこ…此処から近い…よし、行くか!」

アイク「早く行つて//シラクをクリアしよ！」

アイク「早く行つて//シラクをクリアしよ！」

なのは「行くよー！」

//シラクに向かう高町。

ハンター「…。」

しかし、その近くにハンター…。

なのは「早く…早く…。」

ハンター「…。」

なのは「此処…！？」

ハンター「！」

見つかった…。

なのは「うわああーーー！ハンターいたあああーーー！」

ハンターに見つかった高町。逃げ切れるのか…？

なのは「不味い不味い不味い！－！－！」

角を使い逃げる高町。しかし、追跡がやむことは、無い……。

ポン

高町なのは 確保 残り 9人

なのは「うわあ～…最悪～…」。

エース・オブ・エースが、散つた。

「エイト、『森の中に高町なのは確保。残り9人。』なのは捕まつた!!」

マリオ「不味い……一桁行つた。」

ヴィータ「何やつてんだよ…ハースさんよ…。」

当麻「端つ」…此処か?

船誘導装置に着いた上条。

スバル「あー当麻さん！」

当麻「これが誘導装置か？」

スバル「はい、あと二人必要なんですが…。」

当麻「そうだな…。」

スバル「でも此処にいると見つかります、近くの草むらに隠れましょー！」

当麻「お、おうー。」

二人は誘導装置近くの草むらに隠れる。

サタン「…行つたか？」

先ほどのハンターがいないかを確認するサタン。

サタン「…よし、行くか…。」

ミッシュンに向かつ…。

ハンター「…。」

が、その近くにハンター……。

サタン「……うお！？」

その場を引き返すサタン。

サタン「まだいたのか……。」

思つようにな動けない……。

美琴「私たちが行けばあと一人だけになるから……。」

黒子「早く……。」

二人もミッショilonに向かう！

ハンター「……。」

ハンター「……。」

アイク「もうすぐだな……。」

アイクに接近……。

ハンター「…！」

見つかった…。

アイク「…な！？ハンターだと…？」

急いで逃げるアイク。

アイク「嫌だあああ…！…やめろおおおお…！…！」

ポン

アイク「くつそ…また捕まつた…ああ…」

アイク、またしても逃走成功できなかつた…。

アイク 確保 残り 8人

ピリリ…ピリリ…。

マリオ「アイク確保！？スマブラメンバーは俺だけか！？」

当麻「捕まつた…。」

フェイド「不味い…どんどん減っていく…。」

現在装置には一人だけがいる。

果たしてミッションクリアできるのか！？

ゲーム残り時間16分34秒 残る逃走者8人

MISSION? 3 (後書き)

挿絵やつてみようと考えてみたんですが全く分からぬ。

その前にみてみんのやり方が分かんぬ。

だから多分また逃走中の小説を書くことになつても挿絵無しだと思
う…。

MISSION? 4 (前書き)

ふう……逃走者の皆は頑張っているかな……ん?

3人「突撃いいいい……！」

ビビビビビビビビー……！

……な、何だあれは……？

ビビビビビビー……！

ん?

2人「誰か止めてくれええええ……！」

ビビビビビビビ……。

……何だつたんだ一体?

しかし……お返しをしてくれた方に返事は書いたが……お返しが届くのゲーム終了した後とは……。

MISSION? 4

ミッション終了まであと6分30秒に迫っている。

「」のままクリアできないとエリア内に5体のハンターと9体の通報部隊が放出される。

果たしてミッションをクリアできるのか！？

フェイト「はあ…はあ…。」

船誘導装置のある場所まで急ぐフェイト。

フェイト「これ放出されたら…逃げ切る人いないでしょ…だからクリアしないと…。」

ヴィータ「まだクリアメール来ねえよ…。」

メールが来ないと焦るヴィータ。

ヴィータ「誰が行けよ…本当に…！」

その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

ヴィータ「くそつ…！不味い…。」

急いで身を隠すヴィータ。

ヴィータ「何で来るんだ…！？」

ハンター「…。」

ヴィータ「早く通り過ぎる…。」

ハンター「…。」

見つからなかつたようだ…。

ヴィータ「ふう…危なかつたぜ…。」

しかし、一難去つてまた一難…。

ヴィータ「全く…つてまた来た！？」

ハンター「…。」

ハンター「…。」

ヴィータ「早く逃げないと…捕まるー。」

ハンター「…。」

見つかった…。

ヴィータ「くわつー氣付かれた…！」

角を曲がり、距離を広げるヴィータ。

ハンター「…？」

何と、ハンターを撒いてしまった。

ヴィータ「はあ…はあ…やまあみやがれってんだ！」

サタン「ハンター…どこかに行くな…。」

ハンターがサタンのいる場所から離れて行っている。

サタン「…え？ちよつと待てよ。」

しかし、サタンはあることに気付く。

サタン「あっちの方向は誘導装置がある場所じゃないか！？」

そう、ハンターは船誘導装置のある場所に向かつて行つている。

サタン「くそつ……此処まで来たと言つのに……無理だ……。」

サタン、ミッションを諦めた……。

ハンター「……。」

そのハンターが……。

スバル「誰も来ませんね……。」

スバルと上条に接近！

スバル「……誰か来ましたよ……。」

当麻「あれ……ハンターじゃないか？」

スバル「ほんとですか!? 早く逃げましょーーー!」

ハンター「……。」

二人の姿をハンターがとらえた！

当麻「不味い！ 気付かれた！」

スバル「逃げましょーー!」

ハンターがとらえたのは…。

当麻「不幸だああああ…！…！…！」

上条だ…。

当麻「うわああああ…！…！…！」

驚異の身体能力で逃げる上条。

ハンター「…？」

そしてハンターを撒いてしまった。

当麻「はあ…はあ…不味い…装置から離れた…。」

しかし、装置から大分離れてしまった。

当麻「早く戻らないと…。」

スバル「不味いです…早く戻りましょう!」

スバルも、装置の場所に戻る!

マリオ「あれが…装置か？」

船誘導装置を見つけたマリオ。

マリオ「此処で来るのを待つていればいいのか…ってかスバルはどこに行つたんだ？」

スバルはハンターに追われ、此処から離れた場所にいる。

マリオ「何かあつたかもしれないから此処で待つておこうか…。」

美琴「早く行かないと…。」

黒子「お姉様！もつすぐ放出ですわよー。」

美琴「それほんとー？急ぐわよー。」

黒子「はいー。」

船到着まであと2分！

なのは「あと2分ー?不味いんじゃないー!?」

ヒロコ「しかし…誰も行つていなかしら…。」

はやて「それは無いと思つて。ミッションに勇敢に参加している当麻君や美琴ちゃんとかいるやん。」

シグナム「あと、スバルやマリオも積極的に参加していたぞ。」

ショゾ「…といひで聞きたいが…。」

シグナム「何だ?」

ショゾ「この中で…ヴィータつてやつを見たやついるか?」

シャマル「そう言えば…見てこませんね…。」

レムレス「僕も橋を渡るときにしか見かけていないんだけど…。」

十六夜「どこのでしようか?」

スネーク「ミッションに参加せずに隠れ続けていたり…。」

シグナム「まさか…。」

ヴィータ「はづくしょん…風邪かー?」

フエイト「あと2分！？不味いつて不味いつて！！」

あと2分と言つことを知り、焦るフエイト。

フエイト「早く早く……」

ハンター「…。」

しかし、近くに黒い影…。

フエイト「はあ…はあ…つて！？」

ハンター「…。」

見つかった…。

フエイト「きやーー！」

ポン

フェイト・T・ハラオウン 確保

残り

7人

フエイト「え？…此処で捕まる…？」

サタン「不味い… また一人捕まつた…。」

スバル「フュイトさんまで…！！」

当麻「また一人捕まつた！」

マリオ「…くそつ…もうすぐ1分だ…！」

ハンターと通報部隊放出まであと1分！

マリオ「まだ時間はある…早く来てくれ！」

スバル「はあ…はあ…着いた！」

装置に着いたスバル。

マリオ「おーあと二人誰かいないか！？」

スバル「多分当麻さんが来てくれて…あと一人…。」

マリオ「くそつ…」のまま放出されるのか！？

放出まであと30秒！

当麻「不味い不味い…。」

サタン「今から行つても間に合つか？」

美琴「早くしないと…。」

放出まであと20秒！

黒子「不味いですわ！」

サタン「もう…無理だな…。」

当麻「やばい！」

放出まで…。

6
..
.

7
..
.

8
..
.

9
..
.

10
..
.

1
..
.

2
..
.

3
..
.

4
..
.

5
..
.

牢獄

アルル「あー！船が来たよ～！」

シャマル「出るわ…あれ…！」

ガタン！！

ダダダダダ…。

MISSION 失敗 ハンター5体 通報部隊9体放出

アリス「出でやつたよ～！…どうなるの！？」

フューリー「これはかなり厳しい状況になつたわね…。」

はやて「これは不味いで…。」

魔理沙「まさか…全滅か…！？」

サタン「メール…ミッション失敗…。」

スバル「『エリア内にハンター5体が放出され、8体となり、9体の通報部隊が放出された。』」

当麻「…くつそ…。」

ヴィータ「何してんだよあいつら…！逃げにくくなつたじゃねえか
…！」

マリオ「不味い状況になつたぞこれは…。」

黒子「…これは…。」

美琴「全滅は避けたいわね…。」

ミッション失敗により、ハンター5体と通報部隊9体が放出された！

この厳しい状況の中、逃げ切るものは現れるのか！？

ゲーム残り時間9分50秒 残る逃走者7人

MISSION? 4 (後書き)

逃走者7人に対し、ハンター8体&通報部隊9体となつた。

この中を逃げ切れるものは現れるのか！？

残り10分（前書き）

クロノ「楽しくやつてこなあ……。」

KAITO「次あるとしたら僕たちも出たいですよね。」

クロノ「出をしつくれると思ひながら…？何だあれ…。」

KAITO「え？」

「…………」

ネス「牢獄に突撃だああああ…！…！」

ヤンソン「顔面パイ投げで笑いを取るんだああああ…！」

響「そしてライータにお仕置きよおおー…！…！」

「…………」

クロノ「…なんだ一体…。」

KAITO「あ、また来ましたよ。」

クロノ「え？」

「…………」

リンク&ウルフ「誰か止めてくれえええええ…！…！」

「…………」

エーベルハルト…。

クロノ「…おれ、確か他の作者さんの所の…。」

KAHTO「風のよひに遅れましたがネタ投下＆お返しありがとうございましたね…。」

つゆーとかさ、遅れましたがネタ投下＆お返しありがとうございましたね…。
す…。

残り10分

ミッショーンを失敗したせいでハンターの数は8体に、そして通報部隊9体が放たれた。

現在ゲーム残り時間は9分50秒。

この状況を逃げ切るものは現れるのか！？

美琴「これは不味い状況になつたわね…。」

スバル「ハンター8体つて…！」

当麻「見つかつたら即終わりじゃねえか！！！」

サタン「…うお…通報部隊…。」

通報部隊を見つけ、急いで隠れるサタン。

サタン「はあ…はあ…シャレにならないぞこれは…。」

ヴィータ「本当に不味い状況だこれは…！」

背を低くして辺りを見渡すヴィータ。

ヴィータ「でも……賞金を持ちかえるのは」のあたしだ…「

しかし、賞金は意地でも持ち帰りたいよつだ。

黒子「お姉様といったん分かれたものの……どうしようも有りませんわ…。」

エリア内を移動する白井。

黒子「……通報部隊ですわ…。」

通報部隊を見つけた。

黒子「はあ……はあ……本当に不味いですわ…。」

サタン「早く時間過ぎ去ってくれ…！」

港町にいるサタン。

通報部隊「…。」

しかし、その近くに通報部隊…。

サタン「はあ……アルルにいい所を見せたいものだ…。」

通報部隊「……」

ピ―――つ―――

見つかっ――た。

美琴「！誰か見つかっ――たよ、うね……。」

マリオ「不味い……こんなに大きいのか笛の音つ――て……。」

急いで逃げるサタン。

サタン「んな！？通報部隊！？不味いぞ――！」

ハンター「――」

ハンター？「――」

ハンター？「――」

しかし、その近くにいたハンターがサタンの確保に向かう。

サタン「はあ……はあ……何い――？」

ハンター 3体に…見つかった…。

ポン
サタン
確保
残り
6人

サタン「こ、この私が……こんな所で捕まるとは……アルル……。」

闇の貴公子、通報部隊とハンターによつて敗れる…。

マリオ「メール…サタン確保！」

スバル「不味いよ…ふよふよ組全滅した…。」

ヴィータ「あいつも捕まつたか…そりゃそうだー!!」
シヨンにも行かず隠れて、ばっかりいるからだ！」

人のことを言えないヴィータ…。

当麻「あれって……。」

上条が見つけたのは……。

ハンター「…。」

ハンター

当麻「不味い…ハンターだ…。」

その場から離れる上条。

ハンター？」「！」

しかし、別のハンターに見つかった。

当麻「こつちに来れば…つてハンター！？」

反応が遅れたため逃げるのが遅れた。

ポン

上条当麻 確保 残り 5人

5

384

当麻「また捕まつた…。」

美琴「『森の中に』上条当麻確保。残り5人。』』

スバル「どんどん捕まつて行つて…！」

マリオ「あれ？男で残つているのって俺だけ？」

牢獄

当麻「ハンター多すぎると…。」

サタン「通報部隊に見つかつた…。」

アルル「まあまあ二人とも、元気出してよ。」

リデル「それにしても通報部隊ですか…厄介ですね…。」

レムレス「見つかつたらもう終わりと考えていいよね」この状況の中では。」

アイク「全滅だけは避けてほしい…。」

シグナム「そうだな…誰かは逃げ切つてほしいな…。」

ゲーム終了まであと7分！

牢獄

フェイント「あと5人！」

なのは「あと残っているのって誰！？」

アイク「えっと…ヴィータとスバルとマリオと黒子と美琴だ。」

シェゾ「ほとんど女子だ…！」

ラフィーナ「まだ復活組が2人残っていますわ…！」

ウイッヂ「…しゅん。」

魔理沙「行ける！行けるぞ！」

レミリア「逃げ切れる人が出てほしいわね…。」

黒子「此処まで来たら逃げ切りたいですわ…。」

一度は確保され、復活した白井。

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

黒子「…！ハンターいますわ…。」

ハンターを見つけ、逃げる白井。

ハンター「…！」

しかし、見つかった…。

黒子「不味いですの…見つかりましたの…！」

逃げる白井。

ハンター？「…。」

しかし、逃げた先に別のハンター…。

黒子「こっちに行きますわ！」

ハンター？「！」

黒子「なつー？」

ポン

白井黒子 確保 残り 4人

黒子「此処で捕まるとは…不覚ですわ…。」

美琴「不味い…黒子も捕まつた…。」

マリオ「残るは4人か…。」

スバル「捕まりたくない…！」

ヴィータ「もうすぐ逃走成功だ…！」

残るは4人。果たして、逃げ切るものは現れるのか…?

ゲーム残り時間6分21秒 残る逃走者4人

残り10分（後書き）

逃走者4人に對し、ハンターは8体。

そして、Hリア内には9体の通報部隊。。

果たしてこの脅威を乗り越えることはできるのか！？

残り6分（前書き）

逃走者4人はこの状況を逃げ切れるのか！？

りゅーとさん、差し入れありがとうございます。

3人に届けておきます！

ヴィータ「おい、あたしの分は無いのか！？」

あるわけねえだらあんなこと言って…。

ヴィータ「な、何だとーーー？」

ゲーム時間が7分を切った！

現在の逃走者はヴィータ、スバル・ナカジマ、マリオ、御坂美琴の4人！

果たしてこの圧倒的不利な状況の中、逃げ切るものは現れるのか…？

美琴「絶対に逃げてやるわよ…。」

此処まで、ミッションに果敢に挑んできた御坂美琴！

マリオ「すごいハンター見かける…やっぱ8体だからな…。」

復活ゲームで復活し、唯一の復活組となつたマリオ！

ヴィータ「賞金持ち帰つてやるぞ…。」

此処まで、隠れて生き延びて来たヴィータ！

スバル「みんなの分も頑張らないと…。」

最後のミッションに果敢に挑んだスバル・ナカジマ！

スタッフ「此処まで残れると思つていました?」

マリオ「正直言つてこの状況の中、良く残つてこると思つてゐる。」

現在、庭園の中に隠れているマリオ。

マリオ「……お……ハンター……。」

しかし……。

ハンター「……。」

そこにハンターが接近……。

マリオ「マジか……さればマジでやばいぞ……。」

マリオ、絶対絶命……。

ヴィータ「ミッショーンに挑んでいた偽善者なんか賞金を持ちかえらせる資格はねえな!あたしみたいなやつが持つて帰るんだ!捕まえられるなら捕まえてみろ……不味い……。」

ヴィータもハンターを発見……。

ヴィータ「不味い……近い……。」

「マリオ、早く行ってくれ……！」

「ヴィータ、逃げ切りてえのによ……！」

ハンターと対峙する、二人。

ハンター「！」

ハンターが逃走者の姿をとらえた！見つかったのは……。

「ヴィータ、不味い……見つかった……！」

「ヴィータだ……。

「ヴィータ、うわあー、うわあー、うわああああ……！」

ポン

ヴィータ確保残り3人

現実を受け止められないヴィータ。しかし、これが現実だ…。

マリオ「早く行つてくれ……！」

ハンターが近くにいて、動けないマリオ。

マリオ「くそつ……」れじやいつ気付かれても……！」

その時。
。

ペリーペリー！

マリオ「うわっ……バカ……！」

マリオの携帯が鳴った。

ハンター「！？」

マリオ「音に気付かれた…。」

ハンターはあたりを搜索する。

マリオ「こっちの方に逃げよう。」

マリオはハンターの視界に入らないように移動する。

ハンター「…。」

見つかからなかつたようだ…。

マリオ「危なかつた…。」

これで残るは3人…。

ゲーム時間は5分を切つた！

スバル「もう5分切りましたよ…これいけますよ…！」

しかし、ハンターに捕まれば賞金は、0。此処まで積み上げて来た
賞金も無駄となる。

美琴「絶対に逃げ切つてやるわよ……私のプライドにかけて……！」

逃げ切りの燃える御坂。

通報部隊「…。」

しかし、近くに通報部隊…。

美琴「此処で逃げ切つたらと……通報部隊！」

通報部隊「！-！」

ピ――――――――――――

見つかっただ。

美琴「不味いわ！急いでこの場を…。」

しかし…。

ハンター「！」

近くにいた4体のハンターが確保に向かう！

美琴「！ハンターいたわ…つてこっちからもー…？」

ハンターに囲まれてしまつた…。

美琴「くつ……此処までなのね……。」

ポン

御坂美琴 確保 残り 2人

美琴「通報部隊に見つかったのはいけなかつたわね……。」

その場にへたり込む御坂。

マリオ「あと二人……あと一人だつて……。」

スバル「美琴さんも捕まりました……。」

レミリア「行ける! いけるわよ!」

ルイージ「頑張れ兄ちゃん! …」

これで残るは2人……。

果たして、逃げ切れるのか! ?

ゲーム残り時間 4分32秒

残る逃走者 2人

残り6分（後書き）

これで残るは2人…。

その運命は…？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7073x/>

僕の好きなアニメ＆ゲームのキャラで逃走中！～王国に迫る危機～
2011年11月23日07時46分発行